

「メレナ」ハ胃腸内ニ出血スル病ニテ血液ヲ吐出シ又下痢シ全身蒼白色トナリ四肢厥冷シ死亡ス鞏皮病ハ皮膚硬固トナル病ニテ腓腸部ニ始マリ全身ニ蔓延シ躰温常度以下トナリ嗜眠ヲ貪リ死亡ス

早産兒及ビ發育不良ナル小兒ハ死亡シ易キヲ以テ新陳代謝ヲ盛ニシ身躰ヲ温保スベシ

テ死亡ス。鞏硬病ハ皮膚強硬トナリ全身冷却シ速カニ死亡スル悪性ノ疾病デアアルガ多クハ分娩後直ニ腓腸部ノ腫起ヲ起シ漸次全身ニ蔓延スルモノニシテ皮膚ハ緊張シテ摘ムコト能ハズ又壓迫スルモ壓痕ヲ殘サズ躰温ハ常度以下トナリ嗜眠ヲ貪リ時々低聲ヲ以テ啼泣ス。

第六十七時間

早産兒或ハ然ラザルモ發育不良ナル小兒ハ特別ノ注意ヲナサバレバ死亡シ易キモノナルガ特ニ必要ナルハ新陳代謝ヲ旺盛ニシ身躰ヲ温保スルニアリ。此目的ヲ以テ毎日二三回温浴ヲ行ヒ浴後ニハ柔軟ナル臥床ニ就カシメ腹側及ビ脚部ニハ温婆ヲ置キ温ムベキモノニシテ温婆ハ熱度ヲ過サズ又冷却セ又様注意シ晝夜同一ノ状態ニ保持シ室内温度モ又温暖ニシ華

右ノ目的ニテ毎日二三回温浴ヲ行ヒ柔軟ナル床上ニ寝カシメ身躰周圍ニ温婆ヲ置キ室内ヲ温メ空氣中ニ蒸氣ヲ發散セシメ人乳ノ搾出シタルモノヲ口中ニ注キ毎二時間ニハ睡眠スルモ授乳スヘシ清潔法ニ一層ノ注意ヲナスベシ

氏七十度内外ヲ持續スベキモ空氣乾燥スレバ纖弱ナル氣道ヲ障害スルヲ以テ暖爐ヲ用ユル片ハ水ヲ沸カシ蒸氣ヲ發散セシムベシ。營養法ハ人乳ヲ最良ナリトスレバ多クハ哺乳シ得ザルヲ以テ搾出シタル乳汁ヲ口内ニ注ガザルベカラズ而シテ乳房ハ哺乳セザルガ故ニ動モスレバ分泌減少スルヲ以テ他ノ小兒ニ哺乳セシムルカ其他ノ刺戟ヲ以テ減量セザル様注意セネバナラヌ。斯ノ如キ小兒ハ終始睡眠スルヲ以テ毎二時間ニハ覺醒セシメ哺乳セシムルヲ要スルモノナルガ成熟兒ノ如ク自ラ哺乳シ得ザルヲ以テ甚ダシキ忍耐ヲ覺悟セザルベカラズ。營養不良ナル片ハ諸般ノ疾病ニ罹リ易キヲ以テ清潔法ニ層一層ノ注意ヲ要スルコト勿論ニシテ若シ母乳ヲ用ヒ難ク人工營養ヲ行フ片ハ成熟兒ニ用ユルヨリモ稍々多ク稀釋スルヲ要ス。

産科鉗子ハ
 分娩ノ際兒頭ヲ鉗スルモノ
 左右二葉ヨリ成リ
 左葉ニハ鎖部ニ突起アリ
 右葉ニハ截痕アリ
 子宮内ニ輸ルニハ左葉ヲ前ニ
 ス

産婆ハ自ラ手術ヲ行ハザレバ醫師ノ手術ヲ幫助スルヲアル
 ナ以テ産科ニ要スル器械ノ名稱及ビ其使用法ヲ知ラザルベカ
 ラズ。産科器械ノ種類ハ甚ダ多ク且ツ同一目的ノ器械ニテモ
 専門醫師ハ各特異ノモノヲ用ユルヲ以テ産科鉗子穿顱器碎頭
 器骨鉗鉤等ニ通常用ユル器械ノ概要ヲ述ベントス。産科鉗
 子ハ兒頭ヲ鉗シ胎兒ヲ娩出スルモノニシテ鍵狀ヲナス左右二
 葉ヨリ成リ鎖部ニ於テ交叉スルモノナルガ左葉ノ鎖部ニハ突
 起スル軸アリ右葉ニハ之ニ應ズル截痕アリ二葉ヲ子宮内ニ輸
 リ正當ノ位置ニ於テ鎖シ兒頭ヲ固定シ得ル装置ニテ之ヲ輸ル
 ニハ先ツ左葉ヨリスルヲ例トスルヲ以テ手術ノ際ニハ先ツ左
 葉ヲ出シ次デ右葉ヲ出スベキモノニシテ醫師右葉ヲ送入スル
 際産婆ハ手渡サレタル左葉ヲ保持スルニ其位置ヲ變セヌ様注
 意スベシ。穿顱器ハ頭部大ニシテ娩出シ難キ際之ヲ頭蓋内

穿顱器ハ頭部大ニシテ
 産出シ難キ際
 頭部ヲ破リ内容ヲ出スモノ
 形剪刀ニ類似シ
 外部ニ鋭刃ヲ有ス
 碎頭器ハ穿顱ノ後頭骨ヲ碎挫ス
 ルモノ
 實質有窓ノ二葉ヨリ成リ
 螺旋ニテ固定ス
 骨鉗子ハ碎キタル骨ヲ取り出ス
 モノ
 鈍鉤ハ手足等ヲ釣出スルモノ
 斷頭鉤ハ頸部ヲ離斷スルモノ
 回轉紐ハ四肢等ヲ縛ルモノ

ニ刺入シ腦髓ヲ出スモノニシテ形剪刀ニ類似シ之ヲ開ケバ頭
 蓋ヲ切り開クベク外部ニ鋭刃ヲ有スルヲ以テ取扱ヒ上注意セ
 ザレバ他部ヲ傷クルヲアリ又之ヲ使用シタル終ニハ頭蓋内ヲ
 洗ヒ出スノ要アルヲ以テ豫メ消毒液ヲ盛りタル「イルリガー
 トル」ヲ準備スベシ。碎頭器ハ穿顱ノ後頭骨ヲ碎挫スルモ
 ノニシテ實質葉ト有窓葉ノ二葉ヨリ成リ螺旋ヲ以テ固定スル
 ノ装置ヲ有ス。骨鉗子ハ尖端彎曲シ柄長キ鉗子ニシテ破碎
 シタル骨片ヲ取出スニ用ヒ鈍鉤ハ胎兒ノ手足等ヲ釣出スルニ
 用ヒ斷頭鉤ハ横位ノ際頸部ヲ離斷スルニ用ヒ回轉紐ハ回轉術
 ナ行フ際四肢ヲ縛ルニ用ユルモノニテ絹或ハ麻製ナルヲ以テ
 煮沸ニ堪ユ。此外「ボースマン」氏「カテーテル」胎盤用鉗子
 皮下注射器血清注射器食鹽注射器長鉗子尿道「カテーテル」鑷
 子剪刀刀復鉤鉗子止血鑷子持針器針腔鏡等アレバ各自ノ説明

「クロ、フォルム」ヲ用ユルニハ
 疼痛ヲ緩解スルト
 全ク意識ヲ喪失セシムル爲メ
 ニ用ユ
 「バントボン」
 又ハ「スコプロミン」モ代用
 ス
 「クロ、フォルム」ヲ吸入セシム
 レバ
 呼吸脈搏頻回トナリ
 顔面潮紅シ
 冗辯トナリ手足ヲ動かカシ
 更ニ多用ユレバ
 呼吸脈搏緩徐トナリ
 知覺鈍麻シ
 顔面蒼白色トナリ
 瞳孔縮少シ
 鼾聲ヲ放チ眠ル

ヲ要セザルベシ。
 終リニ望ミ「クロ、フォルム」麻醉法ニ付キ一言セン「クロ
 ロフォルム」ハ分娩ノ際知覺過敏ナル婦人ニ於テ疼痛ヲ緩解
 スル目的ニテ用ユルト手術ノ際意識ヲ喪失セシムル目的ニ
 テ用ユルコトアリ。 甲者ノ目的ニハ現今「バントボン」或ハ
 「スコプロミン」ノ注射ヲ代用スルコトアレモ猶ホ「クロ、フ
 ルム」吸入法モ應用スルモノニテ多量ニ用ユレバ呼吸脈搏
 共ニ緩徐トナリ知覺全ク鈍麻シ顔面ハ蒼白色トナリ瞳孔ハ
 縮少シ鼾聲ヲ放チ熟睡ノ状態トナルガ少量ニ用ユレバ呼吸脈
 搏共ニ頻數トナリ顔面潮紅シ亢奮状態トナリ往々冗辯ヲ振ヒ
 手足ヲ動カス等ノ事ヲナセモ婦人ニ於テハ多ク沈靜ニシテ且
 ツ知覺ハ鈍麻スルヲ以テ分娩ニ於テハ此程度ニ止ムレバ陣痛
 ニハ妨ゲアルコトナシ。 「クロ、フォルム」ハ空氣ト混ジ吸入

「クロ、フォルム」ヲ吸入セシム
 ニハ
 假面ヲ用ユ
 五六滴宛假面上ニ滴下シ
 顔面ニ注クベカラズ
 使用前ニハ
 胃腸ヲ空虚ニシ
 義齒アレバ之ヲ取除キ
 衣襟ヲ緩メ
 麻醉ノ恐れ、ニ足ラザル理由
 ヲ説明シ置キ
 頭部ヲ軀軀ト地平ニシテ仰臥
 セシムベシ

セシムルヲ要スルモノニテ通常金屬性假面上ニ點滴瓶ヨリ滴
 下シ鼻口前ニ貼スルモノニテ患者ニハ帶ヲ解キ衣襟ヲ開キ頭
 部ヲ地平面ニシテ仰臥セシメ義齒アレバ之ヲ除キ布片ニテ兩
 眼ヲ被ヒ徐々ニ吸入セシムベシ。 「クロ、フォルム」中ニハ
 「エーテル」ヲ混ジ或ハ「エーテル」ノミヲ應用スル人アレモ
 「エーテル」ハ氣管ヲ刺戟シ易キヲ以テ「クロ、フォルム」ヲ
 勝レリトシ且ツ「クロ、フォルム」ハ顔面ニ滴下スレバ刺戟シ
 テ紅疹ヲ發スルコトアルヲ以テ一回五六滴宛假面上ニ點下シ流
 出セヌ様注意スベシ。 胃腸膨滿スレバ横隔膜ノ運動ヲ妨ゲ
 麻醉ニ長時間ヲ要スルノミナラズ嘔吐ヲ催スヲ以テ之ヲ用ユ
 ル前ニハ一切飲食物ヲ與ヘズ又受療中ハ虚心平氣安靜ナルベ
 キ旨ヲ諭シ置クコト必要ニシテ豫テ酒其他麻醉藥ヲ常用スルノ
 習慣ナキヤヲ聞キ醫師ノ參考ニ供スルコト必要ナリ。 麻醉中

常ニ酒ヲ飲ム人ハ麻醉ニ長時間ヲ要ス

呼吸不正トナルカ

脈搏微弱徐トナレバ

假面ヲ脱シ新シキ空氣ヲ吸入セシメヨ

瞳孔ハ

亢奮期ニハ開大シ

麻醉期ニハ縮小シ

眠覺セントスルキ眼球ヲ左

右ニ動カシ瞳孔ハ開大ス

劇カニ開大スル危險ノ徵

嘔吐ヲ催スカ粘液氣道ニ流入ラントスルキハ

頭部ヲ側方ニ向ケ吐出セシ

呼吸困難トナルキハ

下顎ヲ前下方ニ壓シ

舌ヲ鉗子ニテ引き出し

窓ヲ開キ

平手ニテ胸部ヲ叩キ

冷水ヲ灌クヘシ

ハ呼吸ト脈搏ニ注意シ呼吸不正トナルカ脈搏緩徐微弱トナル
片ハ過剩トナリタルモノト知ルヘク直ニ假面ヲ脱シ新鮮ナル
空氣ヲ吸入セシムヘシ。此際瞳孔ノ狀況ニ注意スヘク亢奮
期ニ於テハ開大シ麻醉期ニハ縮少シ醒覺セントスルキハ眼球
ヲ左右ニ動カシ漸次開大スルモ若シ劇カニ開大スルキハ心臟
麻痺ニ瀕スルモノニテ危險ノ徵ナリ又麻醉中ハ嘔吐ヲ催スカ
或ハ然ラザルモ粘液口中ニ停滯スルキハ氣道ヲ閉塞スルヲア
ルヲ以テ終始之ヲ除キ去リ嘔吐アルキハ頭部ヲ高クシテ側方
ニ向ケ吐出セシメ呼吸困難ニ陥ルキハ假面ヲ脱シ手指ヲ以テ
下顎ヲ前下方ニ壓シ舌鉗子ヲ以テ舌ヲ引出シ窓ヲ開キ新鮮ノ
空氣ヲ通ジ平手ヲ以テ胸部ヲ叩キ又ハ冷水ヲ灌漑スヘシ。
手術終リ吸入ヲ仲止スルキハ患者ハ徐々ニ醒覺スルカ或ハ其
儘睡眠ニ就クヲ以テ呼吸及ビ脈搏顔貌ニ注意シ渴ヲ訴フルキ

麻醉ヲ仲止スルキハ

徐々ニ醒覺スルカ

其儘睡眠ニ就ク

全身ヲ溫暖ニシ

氷片ヲ與フベキモ

飲食物ヲ與フベカラズ

卵膜強硬トハ

卵膜強靱ニシテ

胎胞膨大スルモ破レズ

分娩スルモ猶ホ破レザルヲア

リ

囊兒是ナリ

産出期ニ至リ長ク破レザルキ

ハ破ルベシ

分娩後ニハ直ニ破ルベシ

急性貧血トハ出血ノ爲メ劇カニ

貧血ニ陥リタルモノ

ハ氷片ヲ與ヘ頭部ヲ下クシ全身ヲ溫暖ニシテ寢ニ就カシムベ
シ。飲食物ハ全ク醒覺スルノ後ニアラザレバ之ヲ與フベカ
ラズ「クロ、フォルム」猶ホ未ダ全ク去ラザル前ニ飲食セシ
ムレバ嘔吐ヲ催シ却テ苦悶スルヲアリ。

前講中ニ述ベ盡サバリシモノアリ爰ニ附言ス

卵膜ノ強硬

卵膜ハ時ニ或ハ強靱ニシテ胎胞膨大スルモ破裂セズ甚ダシ

キハ小兒卵膜ヲ被リナカラ産出スルヲアリ囊兒又被膜兒ト稱スルモノ是ナ

リ。産出期ニ至リ長ク胎胞破レサルキハ腹壓起ラズ分娩遅延スルヲ以テ

胎胞ヲ破ルベク若シ胎兒卵膜ヲ被リ産出スルキハ直ニ之ヲ破ブリ小兒ヲ取

出サレバ窒息ス。

急性貧血 妊婦或ハ産婦ハ種々ノ原因ニテ急性ノ貧血ニ陥ルヲアリ。

其主ナルモノハ腔内及ビ外陰部靜脈瘤ノ破裂葡萄狀胎及ヒ前置胎盤ノ出血

胎盤ノ早期剝離流産子宮外妊娠ノ破裂分娩困難ニ於ケル子宮ノ破裂子宮内

翻脫後産期ニ於ケル陣痛微弱胎盤ノ遺殘等デアアルガ此際顔面口唇ハ蒼白色

トナリ四肢厥冷シ脈搏増進百二十乃至百四十至トナリ且細小トナリ稍々強

ク壓スレバ觸レ難キニ至リ惡心嘔吐ヲ催フシ貧血更ニ進メバ耳鳴眼火閃發

急性貧血ノ主症狀ハ

皮膚蒼白四肢厥冷

脈搏微細頻數

惡心嘔吐

耳鳴吃逆欠伸

精神朦朧視力昏朦

口渴呼吸困難

呼吸困難不安狀態

婦人ハ男子ヨリ出血ニ耐ヘ得ル

ヲ以テ處置當ヲ得レバ大出血

ニテモ生命ヲ全ウシ得

處置ハ

頭部ヲ低クシテ仰臥セシメ

四肢ヲ溫布ニテ纏ヒ

腋窩四肢側ニ溫婆ヲ貼シ

酒濃厚ノ茶杯ヲ飲マシメ

溫湯ノ灌腸

溫湯砂糖湯等ヲ服セシム

視力昏朦精神朦朧トナリ又吃逆欠伸ヲ發ス。此諸症ハ腦貧血ノ徵候ニシテ危險デアル更ニ進ンテ渴ヲ訴ヘ呼吸困難トナリ若リニ煩悶シ輾轉反側シ不安ノ狀ヲ呈スル時ハ既ニ危急ノ狀態ニ陥ルモノニシテ續テ冷汗ヲ流シ四肢冷却シ脈搏ハ全ク觸レ難キニ至リ意識消失シ呼吸淺表不正トナリテ死亡スルモノナルガ心臟ノ鼓動ハ常ニ呼吸ヨリ稍々後レテ止ムモノニテ死亡ノ直前ニハ往々痙攣ヲ發ス。出血ニ耐ヘ得ルノ量ハ人ニ依テ異ナリ婦人ハ男子ニ比スレバヨリ多クノ出血ニ耐ヘ得ルモノニシテ應急ノ手當ヲナセバ大出血アリテモ速カニ回復スルコアリ特ニ生來強壯ナル人ニ於テハ驚クベキ出血アルモ死ヲ免カル、コナキニアラズ。此處置トシテハ出血ノ原因ニ對シ止血ノ方法ヲ取ルハ勿論デアルガ其外患婦ノ頭部ヲ低クシ下半身ヲ高クシテ仰臥セシメ「フランネル」ノ如キ溫布ヲ以テ四肢ヲ包ミ腋窩四肢側ニ溫婆ヲ置キ葡萄酒又濃厚ノ茶珈琲等ヲ與ヘ「ホフマン」氏液十五滴ヲ湯ニ滴シ服セシムベシ。此外砂糖湯溫湯其他ノ液汁ヲ飲マシメ能ク溫メタル蒸溜水中ニ食鹽ヲ加ヘ灌腸ヲナス等可及的体内ニ水分ヲ輸送スル方法ヲ取ルベキモ最モ偉効アルハ食鹽水ノ靜脈注入ナルヲ以テ急性貧血ノ旨ヲ記入シ大至急ノ往診ヲ醫師ニ依頼セザルベカラズ。

終
リ

產婆學系統的索引

- 第一編 總論.....11
 - 第一章 產婆學定義.....46
 - 第二章 產婆ノ業務.....1
 - 產婆ノ資格.....2
 - 產婆ノ業態.....3
 - 產婆ノ職責.....4
 - 產婆ノ心得.....5
 - 職務上ノ要件.....5
 - 第三章 消毒法.....39
 - 消毒法ノ意義.....39
 - 疾病ノ傳染.....40
 - 細菌.....40
 - 消毒ノ方法.....43
 - 器械類.....44
 - 繃帶材料.....45
 - 衣類.....45
- 第二編 解剖及ヒ生理.....6
 - 第一章 骨盤骨.....6
 - 第一項 骨盤.....6
 - 第一節 薦骨.....7
 - 第二節 尾骶骨.....8
 - 第三節 髓骨.....8
 - 腸骨.....9
 - 坐骨.....10
 - 耻骨.....10
 - 第四節 大骨盤.....11
 - 第五節 小骨盤.....13
 - 骨盤入口部.....13
 - 骨盤腔.....14
 - 骨盤廣部.....14
 - 骨盤狹部.....15
 - 骨盤出口部.....15
 - 第六節 骨盤高徑.....16

- 第七節 骨盤ノ傾斜.....16
- 第八節 骨盤腔ノ彎曲.....16
- 第二章 男女軀格ノ差異.....17
 - 男女骨格ノ差.....17
 - 男女筋肉皮膚等ノ差.....17
 - 男女毛髮ノ差.....18
 - 男女喉頭頸部等ノ差.....18
 - 男女骨盤ノ差.....18
- 第三章 女子生殖器.....19
 - 第一項 生殖器ノ發育.....19
 - 生殖線.....24
 - ミュルレル氏管.....24
 - 子宮ノ發育.....25
 - 腔ノ發育.....25,28
 - 喇叭管ノ發育.....25,30
 - 第一節 外陰部.....19
 - 陰阜.....20
 - 大陰唇.....20
 - 小陰唇.....20
 - 陰核.....21
 - 前庭.....21
 - 腔入口一處女膜.....21
 - 會陰.....22
 - 第二節 乳房.....23
 - 乳腺.....23
 - 乳頭.....23
 - 乳暈.....23
 - 副乳.....24
- 第二項 內生殖器.....24
 - 第一節 子宮.....26
 - 子宮ノ位置.....26,33
 - 子宮ノ形狀.....27
 - 子宮ノ體.....27
 - 子宮腔部.....29
 - 子宮腔.....28

第二節 腔.....28
 腔管.....28
 腔ノ内面.....29
 第三節 喇叭管.....30
 喇叭管ノ形状.....30
 喇叭管腔.....30
 第四節 卵巢.....31
 卵巢ノ位置.....31
 濾胞—グラフ氏濾胞.....31,32
 黄体.....31
 第三項 生殖器周圍ノ器管.....35
 第一節 膀胱.....35
 尿道.....35
 輸尿管.....35
 第二節 直腸.....36
 大腸.....36
 肛門.....37
 第五節 腹膜.....37
 ツグラス氏腔.....38
 第四章 月經.....32
 月經ノ發動.....32
 經血.....32
 月經時ノ症状.....33
 月經ト卵巢トノ關係.....49
 第三編 正規妊娠.....47
 第一章 妊娠.....47
 第一項 妊娠ノ定義.....47
 第二項 妊娠ノ持續.....47
 第三項 受胎精虫.....47
 卵子.....48
 交接.....49
 第四項 妊孕卵.....50
 胚板.....50
 蛋黃囊.....51

尿囊.....51
 第五項 成熟卵.....52
 胎兒.....52
 卵膜.....55
 脫落膜.....55
 眞脫落膜.....56
 翻轉脫落膜.....56
 卵床脫落膜.....57
 絨毛膜.....57
 羊膜.....57
 胎盤.....58
 臍帶.....58
 羊水.....59
 第二章 胎兒.....52
 第一項 胎兒ノ發育.....52
 第一節 胎兒ノ各月狀況.....52
 第一ヶ月.....52
 第二ヶ月.....53
 第三ヶ月.....53
 第四ヶ月.....54
 第五ヶ月.....54
 第六ヶ月.....54
 第七ヶ月.....54
 第八ヶ月.....54
 第九ヶ月.....55
 第十ヶ月.....55
 第二節 胎兒ノ各月身長.....67
 第三節 胎兒ノ各月軀重.....67
 第二項 成熟及ビ未熟胎兒.....65
 身長及ビ軀重.....65
 全身ノ狀況.....65
 頭蓋骨.....67
 頭蓋ノ縫合.....69
 顱門.....69
 頭蓋ノ徑線.....69

未熟胎兒.....66
 第三項 胎兒ノ生理.....61
 胎兒ノ營養.....61
 血液ノ巡環.....62
 アンチ氏管.....62
 ボタリ氏管.....62
 卵圓孔.....62
 無呼吸.....64
 早期呼吸.....64
 第四項 子宮胎兒ノ狀況.....70
 子宮腔ト胎兒ノ關係.....70
 胎位.....71
 胎向.....72
 胎勢.....72
 第三章 身軀上ノ變化.....73
 第一項 生殖器ノ變化.....73
 子宮ノ肥大.....73
 子宮ノ位置.....74
 月經.....74
 腔外陰部ノ變化.....74
 乳房ノ變化.....74
 第二項 全身ノ變化.....75
 食物ノ變化.....75
 精神上ノ變化.....75
 便通異常.....75
 浮腫及ビ靜脈ノ怒張.....75
 皮膚ノ變化.....76
 第四章 妊娠ノ徵候.....76
 第一項 一般徵候.....76
 確徵.....77
 半確徵.....78
 不確徵.....78
 第二項 各月ノ徵候.....80
 八ヶ月ト十ヶ月ノ差.....82
 第五章 分娩期日算出法.....79
 最終月經ヨリ.....79
 胎動自覺ノ日ヨリ.....79
 子宮下降ノ日ヨリ.....80
 交接ノ日ヨリ.....80
 第六章 妊婦ノ診斷法.....83
 第一項 診斷法一般.....83
 診察時ノ注意.....83
 産婆ノ心得.....84
 妊婦ノ問診.....84
 第二項 外診.....85
 第一節 視診.....85
 第二節 接診.....85
 妊婦ノ位置.....86
 第一候.....86
 第二候.....86
 第三候.....87
 第四候.....87
 第三節 聽診.....88
 聽診ノ方法.....88
 胎兒ノ心音.....89
 臍帶ノ雜音.....89
 胎兒ノ運動.....89
 子宮ノ雜音.....89
 大動脈音.....89
 膈内瓦斯音.....90
 第四節 測診.....83
 腹圍.....83
 胎兒軸.....83
 胎兒弓.....83
 對角結合線.....256
 第三項 内診.....90
 第一節 内診ノ準備.....90
 内診時ノ心得.....90
 内診時ノ清潔消毒法.....90
 内診時ノ位置.....91

第二節 內診前ノ検査.....91	數胎ノ診斷.....100
處女膜.....91	數胎ノ位置.....73
外陰部.....91	第八章 妊婦ノ攝成法.....101
婆氏線ノ腫起.....91	概言論.....101
尿道口.....91	身軀ノ安靜及ビ運動.....103
耻骨弓ノ角度.....92	清潔法—入浴.....103
坐骨結節ノ距離.....92	衣服—腹帶.....103
第三節 內診ノ方法.....93	業務.....104
第四節 內診上ノ處見.....93	飲食物.....105
子宮腔部.....93	嘔吐ニ對スル處置.....106
子宮口.....93	便秘ニ對スル處置.....106
兒頭ノ形狀.....93	下痢ニ對スル處置.....106
薦骨脚及ビ坐骨棘.....93	排尿—尿閉.....106
尾骶骨.....93	睡眠.....106
腔壁及ビ會陰ノ硬度.....93	乳房.....106
第五節 初妊婦ト經產婦ノ差.....94	交接.....104
第四項 双合診.....94	第四編 正規分娩.....107
診察ノ方法.....94	第一章 分娩.....107
處見.....94	第一項 分娩ノ意義.....107
子宮ノ太サ.....95	分娩ノ理論.....107
胎兒ノ部位及ビ移動.....95	第二項 分娩ノ種類.....107
第五項 初妊婦及ビ經產婦ノ診斷.....95	常產.....108
第六項 胎兒ノ性(男女).....97	早產.....108
第七項 胎兒ノ生死.....97	流產.....108
死亡直後ノ徵候.....98	遲產.....108
時日ヲ經タル後ノ徵候.....98	正規分娩.....109
第七章 數胎.....98	異常分娩.....109
數胎ノ原因.....99	第三項 產道.....112
數胎ノ種類.....99	骨部產道.....112
數胎發生ノ時期.....99	軟部產道.....112
一卵性及ビ二卵性數胎.....99	第四項 產出力.....108
數胎ノ性.....99	第一節 陣痛.....109
數胎ノ卵膜.....100	陣痛ノ發作.....109
	發作ノ經過.....109
	進行期.....110

極期.....110	化.....128
退行期.....110	母軀ノ變化.....128
休憩時.....111	胎兒ノ變化.....128
陣痛ノ診斷.....110	心音.....128
發作的發動ノ要.....110	產瘤.....129
第二節 腹壓.....111	骨ノ變形.....129
腹壓ノ自然的發動.....111	第七節 分娩ノ時刻.....118
腹壓上ノ注意.....111	第八節 分娩痛.....111
第三節 腔壁ノ収縮.....111	第二章 分娩時ノ胎位.....118
第四節 陣痛ノ種類.....118	命名法.....119
前陣痛.....118	各胎位ノ多少.....121
開口期陣痛.....112,118	各胎位分娩ノ難易.....122
產出期陣痛.....114,118	後頭位ノ區別.....122
後產期陣痛.....116,118	第三章 後頭位ノ分娩.....122
後陣痛.....118	第一項 後頭位ノ診斷.....123
第五項 分娩ノ經過.....112	頭部ノ位置.....123
第一節 開口期.....114	心音聽取ノ部位.....123
腰痛及ビ腹痛.....114	兒脊ノ方向.....123
胎胞形成.....113	內診上ノ處見.....123
第二節 產出期.....114	第二項 後頭位分娩ノ器械
胎胞破裂—破水.....114	的作用.....124
產婦ノ全身狀態.....115	骨盤ト兒頭ノ比較.....124
便意.....115	器械的作用ノ意義.....124
排胎.....115	分娩直前ノ胎兒位置.....125
發露.....115	第一回轉.....125
第三節 後產期.....116	第二回轉.....126
胎盤ノ產出.....116	第三回轉.....126
第四節 双胎分娩ノ經過.....117	第四回轉.....126
第五節 分娩ノ持續時間.....117	肩胛部ノ產出.....127
開口期.....117	第一及ビ第二後頭位ノ
產出期.....117	差.....127
後產期.....117	第四章 正規分娩ノ取扱法.....130
初產婦ト經產婦トノ相	第一項 產婆ノ携帶用品.....130
違.....117	往診準備ノ必要.....130
第六節 分娩時母兒ノ變	手術服.....130

器械類	131	分娩ヲ急グ場合	143
消毒藥	131	會陰保護ノ必要	143
附屬品	131	會陰ノ保護法	143
第二項 産婦ノ診察	132	側臥位	145
往診時ノ注意	132	仰臥位	146
問診	132	後會陰保護法	146
外診	132	會陰破裂後ノ心得	144
内診	132	第五節 兒頭産出後ノ處置	146
第三項 分娩ノ準備	133	頸部検査ノ必要	147
第一節 産室産床等	133	臍帶纏絡ノ處置	147
産室ノ撰擇	133	胎兒ノ産出遅キ時ノ處置	147
室内ノ用意	133	肩胛産出時ノ處置	148
産床	134	第六節 胎兒産出後ノ處置	148
小兒ノ寢床	134	出血有無ノ検査	149
第二節 産婦ノ用意	135	子宮収縮上ノ検査	149
飲食物	135	臍帶ノ結紮	149
衣服	135	胎盤ノ取出シ法	150
浴湯	135	胎盤遺殘時ノ處置	151
頭髮	136	胎盤産出遅キ時ノ處置	151
排便灌腸	136	「クレーデ」氏ノ壓出法	151
排尿	137	癒着胎盤ノ處置	152
就床ノ時期	137	第七節 胎盤産出後ノ處置	152
分娩時ノ位置	138	腹部ノ検査	152
分娩時ノ睡眠	139	外陰部ノ検査	152
第三節 開口期ノ處置	139	會陰部ノ處置	153
内診上ノ注意	140	外陰部ノ壓抵法	153,154
外陰部ノ處置	140	腹帶	154
腔内ノ洗滌	140	分娩後産床ノ處置	155
胎胞ノ處置	141	衣服ノ交換	155
第四節 産出期ノ處置	141	飲食物	155
破水後ノ處置	141	排尿時ノ注意	156
腹壓ノ必要	142		
腹壓ヲ禁ズル場合	142		
上圍ヲ止ムル時期	142		
産婦ノ位置	142		

第八節 双胎兒ノ分娩	156	處女膜ノ變化	162
臍帶結紮ノ注意	156	妊娠線	162
第九節 分娩中胎兒ノ死亡	157	第五項 乳汁ノ分泌	162
死亡兒ノ徵候	157	第一節 初乳	162
誤診シ易キ條項	157	初乳ノ性質	162
診斷上ノ注意	157	授乳ノ必要	163
第五編 正規産褥	157	第二節 乳房	163
第一章 産褥	158	乳房ノ變化	163
産褥ノ意義	158	乳汁分泌ノ開始	163
第二章 褥婦	158	乳汁分泌ノ増減	163
第一項 全身状態	158	分泌ノ閉止	164
体温脈搏	158	第三節 乳汁	164
大小便	158	乳汁ノ性質	164
發汗	158	性質ノ變化	164,165
食欲	158	第四節 授乳	164
第二項 生殖器ノ復故作用	159	小兒榮養上ノ必要	164
子宮ノ収縮	159	母體健康上ノ必要	164,175
分娩直後子宮ノ位置	159	授乳ヲ禁ズベキ場合	164,175
膀胱直腸トノ關係	159	授乳時間ヲ定ムルノ要	176
収縮ニ要スル時間	159	授乳ノ方法	176
分娩後ノ陣痛	159	授乳前後ノ清潔法	177
子宮頸管ノ収縮	160	授乳ノ注意	177
子宮腔部ノ狀況	160	乳頭過小ノ處置	165,178
腔ノ収縮	160	哺乳セザル時ノ心得	178
第三項 惡露	160	乳量少ナキ時ノ處置	178
血性惡露	160	乳量多キ時ノ處置	179
漿液性惡露	161	授乳ヲ止ムル時期	165,179
白色惡露	161	第三章 褥婦ノ取扱法	165
惡露ノ減少	161	第一項 褥室	165
授乳トノ關係	161	位置及ビ容積	166
第四項 産褥後ノ狀況	161	温度	166
子宮及ビ子宮口	162	空氣ノ交換	166
腔ノ狀況	162	衣類器具等	166

訪問者.....166
 清潔法.....166
 第二項 褥床.....166
 褥床ノ整理.....167
 褥床ノ交換.....167
 交換時ノ注意.....167
 第三項 着衣.....167
 着衣ノ性質.....167
 交換.....167
 第四項 褥婦訪問時ノ處置.....167
 全身ノ狀況.....168
 躰温及ビ脈搏.....168
 陣痛ノ發作及ビ其處置.....169
 乳房及ビ腹部ノ狀況.....169
 子宮収縮ノ狀況.....169
 排便上ノ注意.....169
 便秘及ビ尿閉時ノ處置.....169
 清潔法.....170
 全身ノ拭清.....170
 手指ノ洗滌.....170
 皺襞部ノ處置.....170
 襪衣等ノ交換.....170
 壓抵布.....171
 汚染ノ檢査.....171
 交換時ノ時期.....171
 交換時ノ注意.....171
 安靜ノ必要.....171
 就床ノ日子.....172
 室外運動.....173
 交接.....174
 飲食物.....174
 第六編 異常妊娠.....193
 異常妊娠ニ對スル心得.....193
 醫師招待上ノ心得.....195
 第一章 母躰ニ發スル異常.....196

第一項 消化障害.....196
 第一節 惡咀.....197
 特徵.....197
 原因.....197
 症狀.....198
 第一期.....198
 第二期.....198
 第三期.....198
 攝成法.....199
 治療上ノ心得.....199
 第二節 便秘.....199
 原因.....199
 症狀.....200
 攝成法.....200
 第三節 下痢.....200
 原因及ビ結果.....200
 攝成法.....200
 第二項 子宮増大ニ因スル
 障害.....200
 第一節 利尿障害.....201
 尿意頻數.....201
 尿閉.....201
 膀胱麻痺.....201
 利尿障害ニ對スル處置.....201
 第二節 靜脈瘤.....202
 原因.....202
 發病部位.....202
 局部ノ狀況.....202
 攝成法.....202
 第三節 浮腫.....202
 原因.....203
 局部ノ變化.....203
 症狀.....203
 攝成法.....203
 第三項 腔及子宮ノ疾病.....206

第一節 痲疾.....206
 再發ノ動機.....207
 症狀.....207
 「バルトリン」氏腺炎.....207
 眼病トノ關係.....208
 小兒ニ及ボス影況.....208
 第二節 腔内漏液及ビ出
 血.....208
 假羊水.....208
 月經.....210
 內膜炎.....210
 子宮ノ腔部糜爛.....210
 子宮「ボリープ」.....210
 腔内靜脈瘤.....210
 第三節 子宮癌腫.....209
 惡性ノ腫瘍.....209
 經過.....209
 妊娠トノ關係.....209
 第四項 子宮ノ位置異常.....221
 第一節 子宮前轉症.....221
 發病機會.....222
 症狀.....222
 分娩時ノ狀況.....222
 豫防法.....222
 第二節 子宮後屈症.....223
 發病機會.....223
 解剖的處見.....223
 箱頓症.....223
 診斷.....223
 處置.....224
 第三節 子宮及ビ腔脫.....225
 發病ノ原因.....225
 交接上ノ關係.....225
 箱頓症.....225
 腔脫ト膀胱トノ關係.....225

處置.....226
 第五項 全身ノ疾病.....204
 第一節 心臟ノ疾患.....204
 第二節 腎臟病.....204
 第三節 脚氣.....205
 脚氣衝心.....205
 慢性脚氣.....205
 豫防及ビ攝成法.....206
 第四節 微毒.....240
 胎兒ニ及ボス影況.....240
 分娩後小兒ノ發病.....240
 妊娠時ノ處置.....240
 第五節 結核.....241
 症狀.....241
 妊娠ノ影況.....241
 早期治療ノ要.....241
 第六節 急性貧血.....237
 全身症狀.....237
 皮膚ノ變化.....237
 惡心嘔吐.....237
 止血法.....237
 全身ノ處置.....238
 第七節 人事不省.....239
 症狀.....239
 原因.....239
 應急處置.....239
 第八節 假死及ビ眞死.....239
 應急處置.....239
 胎兒ノ處置.....239
 第九節 惡性脈絡膜上皮
 腫.....219
 發病時機.....219
 疾病ノ本態.....219
 全身症狀.....220
 局部症狀.....220

本病ノ轉歸……………220	過大胎盤……………232
診斷……………220	副胎盤……………232
第二章 胎兒及卵膜ノ異常…211	臍帶ノ過長……………233
第一項 卵ノ異常……………211	臍帶ノ過短……………233
第一節 葡萄狀胎……………211	臍帶ノ捻轉……………233
解剖的處見……………211	臍帶ノ結節……………233
發育經過……………211	臍帶ノ纏絡……………233
症狀……………211	臍帶ノ附着異常……………233
診斷……………211	第四項 胎兒ノ死亡……………218
處置……………212	胎兒ノ變化……………218
第二節 血液血塊……………217	木乃伊變質……………218
解剖的處見……………218	母體ノ腹部症狀……………219
原因……………218	乳房ノ變化……………219
子宮ノ狀況……………218	全身症狀……………219
第三節 羊膜水腫……………226	第三章 流早產……………212
羊膜水腫ノ意義……………226	流產ノ意義……………212
症狀……………226	早產トノ區別……………212
流產ヲ起シ易キ理由…226	胎盤構成前後ノ差……………213
分娩時ノ狀況……………226	第一節 流產ノ原因……………213
處置……………227	母體ノ疾患……………213
第四節 羊水過少……………227	胎兒ノ疾患……………213
羊水過少ノ意義……………227	外傷……………213
胎兒ニ及ボス影況……………228	局部ノ刺戟……………213
第二項 胎兒ノ發育異常…228	精神ノ感動……………213
兔唇……………228	藥物ノ濫用……………213
贅指贅趾……………229	第二節 症狀……………213
鎖肛……………229	出血及ビ疼痛……………213
尿道閉鎖……………229	全身症狀……………214
無頭兒……………229	下腹部ノ狀況……………214
脊椎破裂……………229	第三節 經過……………214
腦水腫……………230	流產ノ種類……………215
過大胎兒……………230	全流產……………215
重複畸形……………231	不全流產……………215
第三項 胎盤及ビ臍帶ノ異常……………231	四ヶ月後ノ流產……………215
	第四節 診斷……………215

出血及ビ疼痛……………215	第一節 過大骨盤……………244
子宮口ノ狀況……………215	分娩ノ輕易……………244
胎兒及ビ卵膜ノ發見…215	墜落產……………244
第五節 處置……………216	豫防法……………244
第六節 流產ノ危險……………216	會陰ノ保護……………244
第四章 子宮外妊娠……………234	第二節 狹窄骨盤ノ種類244
子宮外妊娠ノ意義……………234	甲 概論……………245
第一節 症狀……………235	狹窄骨盤ノ輕重……………258
月經ノ閉止……………235	第一度……………258
乳房ノ變化……………235	第二度……………258
子宮ノ變化……………235	第三度……………258
子宮ノ出血……………235	佝僂病ノ存在……………245
第二節 胎兒ノ死亡……………235	骨軟化症トノ區別…246
發育停止……………235	發病時期……………246
疼痛出血……………235	一般症狀……………247
第三節 十ヶ月後ノ變化236	原因……………248
胎兒ノ死亡……………236	骨盤ノ變狀……………249
腹膜炎……………236	乙 狹窄骨盤……………249
骨片ノ排除……………236	狹窄骨盤ノ意義……………250
化石兒……………236	丙 佝僂病性狹窄骨盤250
第四節 治療法……………236	全身症狀……………250
胎兒ノ取出シ法……………236	骨盤ノ形狀……………250
產婆トシテノ處置……………236	丁 骨軟化症狀狹窄骨盤……………251
第五章 忘想妊娠……………241	發病狀況……………251
忘想妊娠ノ意義……………241	全身症狀……………251
發病スベキ機會……………241	骨盤ノ形狀……………251
症狀……………242	戊 狹窄骨盤ノ特發原因……………252
處置……………242	因……………252
第六編 異常分娩……………242	脊柱彎曲……………252
異常分娩ノ意義……………243	下肢ノ脫臼……………252
難產……………243	下肢ノ疼痛……………252
異常分娩ノ結果……………243	習慣性位置不正……………252
產婆ノ責務……………243	骨盤ノ關節炎……………252
第一章 產道ノ異常……………244	己 全狹窄骨盤……………252
第一項 骨部產道……………244	

全身症狀……………252	第三回轉……………255
骨盤ノ形狀……………252	第六節 狹窄骨盤ニ對ス
庚 橫徑狹窄骨盤……………253	ル處置……………259
原因……………253	人工早産……………259
骨盤ノ形狀……………253	定時分娩ニ對スル處置……………259
辛 斜徑狹窄骨盤……………253	第七節 高度ノ傾斜アル
原因……………253	骨盤……………259
骨盤ノ形狀……………253	第二項 軟部産道ノ異常……………260
壬 骨瘤性狹窄骨盤……………253	第一節 子宮口ノ狹窄……………260
癸 單純扁平狹窄骨盤……………253	第二節 腔ノ狹窄……………261
第三節 狹窄骨盤ノ診斷……………256	第三節 處女膜ノ強靱……………261
全身ノ症狀……………256	第四節 子宮ノ纖維腫……………262
前回分娩ノ狀況……………256	分娩時ノ障害狀況……………262
局部ノ検査……………256	第五節 外陰部ノ腫瘍……………263
對角結合線……………256	浮腫……………263
眞結合線……………256	象皮腫……………263
弓骨弓ノ角度……………257	靜脈瘤……………263
坐骨結節……………257	「バルトリン」氏線炎……………263
第四節 狹窄骨盤ノ分娩……………254	血腫……………263
胎兒トノ比較……………254	第六節 會陰ノ強靱……………264
分娩ノ難易……………254	第七節 卵巢囊腫……………264
兒頭ノ縮少……………257	第八節 直腸ノ充盈……………264
高度狹窄ノ結果……………257	第九節 膀胱ノ膨滿……………265
位置異常……………257	第十節 子宮ノ前轉……………265
羊水ノ漏液臍帶脫等……………257	第十一節 子宮ノ側倚……………266
子宮破裂……………257	第十二節 子宮及ビ腔ノ
軟部ノ壞死……………257	重復……………266
吸收熱……………257	第二章 産出力ノ異常……………267
母兒ノ死亡……………257	第一項 陣痛異常……………267
第五節 扁平骨盤ノ器械	第一節 陣痛微弱……………268
的作用……………255	原因……………268
回轉不全ノ理由……………255	陣痛微弱ノ種類……………268
大顛門ノ下降……………255	續發性陣痛微弱ノ原因……………268
矢狀縫合ト薦骨トノ接	陣痛微弱ノ結果……………269
近……………255	開口期……………269

産出期……………269	器械的作用……………282
後産期……………270	産瘤……………283
陣痛微弱ノ豫防法……………271	胎兒ノ死亡シ易キ理由……………283
陣痛微弱ノ處置……………271	頤部ヲ前ニ向ケタル顔
第二節 過劇陣痛……………272	面位……………284
原因……………272	顔面位ノ豫后……………284
過劇陣痛ノ危險……………272	顔面位ノ處置……………284
骨盤狹窄ノ過劇陣痛……………273	第四項 額位……………285
過劇陣痛ニ對スル用意……………273	診斷……………285
第三節 痙攣性陣痛……………274	器械的作用……………285
各冬期ニ於ケル狀況……………274	分娩困難ノ理由……………285
原因……………274	第五項 骨盤位……………286
症狀……………274	第一節 骨盤位ノ統計……………286
處置……………275	第二節 骨盤位ノ種別……………286
第二項 腹壓ノ異常……………275	第三節 臀位……………287
腹壓ノ發作ヲ妨グル原	外診上ノ處見……………287
因……………275	内診上ノ處見……………287
分娩ト腹壓ノ關係……………275	口ト肛門トノ區別……………287
第三章 胎位ノ異常……………275	第四節 器械的作用……………288
第一項 前頭位……………276	入口部ニ於ケル狀況……………288
前頭位ノ意義……………276	出口部ニ於ケル狀況……………288
原因……………276	肩胛部ノ分娩……………289
分娩ノ困難ナル理由……………276	頭部ノ分娩……………289
前頭位分娩ノ器械的作	第五節 産瘤……………290
用……………277	第六節 胎兒ノ死亡シ易
産瘤……………278	キ理由……………290
處置……………278	羊水ノ早期流出……………290
第二項 顛頂位……………279	臍帶ノ壓迫……………291
原因……………279	第七節 後頭ヲ前ニ向ケ
顛頂位ノ種別……………279	タル臀位……………291
第三項 顔面位……………280	第八節 骨盤位ノ診斷……………292
原因……………280	肘ト膝トノ區別……………292
類別……………280	手ト足トノ區別……………292
外診上ノ處見……………280	第九節 骨盤位分娩ノ豫
内診上ノ處見……………281	后……………292

第十節 產婆ノ處置……293

 甲 妊婦ノ位置……294

 橫床位……294

 半橫床位……294

 平臥位……294

 乙 分娩ノ介補……295

 胎胞ノ保存……295

 破裂後ノ處置……295

 足部牽引ノ害……295

 臍帶脫出ニ對スル處置……295

 軀軀以上ノ分娩……296

 丙 骨盤位娩出術……297

 臀部ノ娩出……297

 一脚ヲ出ス際ノ處置……297

 二脚ヲ出ス際ノ處置……297

 肩胛部ノ娩出……298

 上肢ノ娩出……299

 兒頭ノ娩出……299

 手術ノ敏捷ヲ要スル理由……300

 胎兒死亡時ノ心得……300

第六項 橫位……301

 第一節 橫位ノ種別……301

 第二節 分娩時位置ノ名稱……301

 第三節 橫位ノ原因……302

 第四節 橫位ノ診斷……305

 側腹部ノ突出……305

 腹部上下部ノ虛空……305

 心音聽取ノ部位……305

 斜位ノ狀況……305

 骨盤内ノ狀況……305

 骨盤入口部肩胛部ノ狀況……306

第五節 橫位ノ分娩……302

 後肩胛部ノ壓下……303

 箱頓橫位……303

 陣痛ノ變化……303

 腐敗熱ノ發作……303

 胎兒ノ死亡……303

 自然回轉……304

 自己產出……304

 自己產出時ノ處置……304

第六節 橫位ノ處置……307

 側臥法……307

 胎胞ノ保存……307

 外回轉術……307

 內回轉術……308

 消毒法ノ注意……308

 手術ヲ行フ場合……308

 子宮挿入スベキ手ノ撰擇……309

 手ノ挿入法……309

 足部ノ把持法……309

 膝部ノ把持法……310

 縱位ニ變スル後ノ處置……310

第四章 胎勢ノ異常……315

 第一項 四肢下垂及ビ脫……315

 原因……315

 處置……315

 第二項 臍帶ノ下垂及脫……311

 原因……311

 下垂及ビ脫ノ危險……311

 診斷……311

 胎兒死亡後ノ處置……312

 臍帶ノ正復法……312

 正復困難ノ場合……312

第五章 胎盤卵膜臍帶等ノ異

常……312

第一項 胎盤ノ早期剝離……318

 原因……318

 症狀……318

 內出血……319

 疼痛……319

 子宮肥大……319

 呼吸及ビ脈搏……319

 處置……319

第二項 胎盤ノ癒着……320

 癒着時ノ出血……320

 胎盤壓出法……320

第三項 前置胎盤……321

 前置胎盤ノ意義……321

 原因……321

 前置胎盤ノ種類……321

 症狀……321

 各種前置胎盤ノ豫后……322

 胎兒ニテ出血部ヲ壓迫スル法……322

 早期剝離トノ區別……322

 處置……323

 腔内栓塞法……324

 單保挿入時ノ注意……325

 胎胞ヲ破ル時期……326

 內回轉術……326

 胎盤ノ遺殘シ易キ理由……327

第四項 胎盤遺殘……343

 症狀……343

 遺殘ニ對スル處置……343

 遺殘ノ結果……343

第五項 卵膜ノ強硬……397

 囊兒……397

 處置……398

第六項 臍帶ノ纏絡……313

 纏絡ノ種類……313

 纏絡ノ解除……313

 纏絡ノ危險……313

第七項 臍帶ノ斷裂……314

 原因……314

 處置……314

第六章 產道ノ損傷……328

 第一項 子宮破裂……328

 原因……328

 破裂時ノ狀況……328

 破裂後ノ狀況……329

 破裂前ノ處置……330

 破裂後ノ處置……330

 第二項 子宮頸部ノ裂傷……330

 原因……330

 處置……330

 裂傷ノ種類……330

 裂傷ノ危險……330

 診斷……330

 第三項 腔ノ外傷……332

 原因……332

 外傷ノ部位……332

 外傷ノ結果……332

 第四項 外陰部ノ外傷……333

 外傷ノ部位……333

 診斷上ノ注意……333

 處置……333

 第五項 會陰破裂……334

 原因……334

 破裂ノ部位……334

 破裂ノ多少……334

 破裂ノ狀況……335

 破裂ノ結果……335

 治癒後ノ狀況……335

 破裂肛門ニ達スル時ノ

狀況……………335	正復後ノ處置……………317
早時縫合ノ必要……………336	第四項 子癩……………344
輕度破裂ノ處置……………336	原因……………344
第六項 骨部ノ外傷……………337	發病狀況……………344
原因……………337	發作時ノ狀況……………345
外傷ノ種類……………337	痙攣期ノ狀況……………345
處置……………337	再發ノ狀況……………345
第七章 分娩時ニ發スル疾病……………338	分娩トノ關係……………346
第一項 無力性出血……………338	子癩ノ豫防……………346
無力性出血ノ意義……………338	發作時ノ處置……………346
原因……………339	發作後ノ處置……………346
出血ノ狀況……………338	分娩催進ノ心得……………346
內出血ノ症候……………338	第五項 呼吸困難……………347
腹部ノ狀況……………338	原因……………347
處置……………339	分娩時ノ狀況……………347
胎盤ノ人工剝離法……………339	處置……………348
胎盤剝後ノ處置……………340	第六項 嘔吐……………348
一部胎盤遺殘時ノ處置……………340	第七項 脫腸……………348
手術後ノ處置……………340	脫腸ノ部位……………348
剝離シタル胎盤ノ處置……………341	脫腸ノ豫防……………348
出血ニ對スル子宮ノ灌水……………341	脫腸ノ處置……………348
灌水ノ方法……………341	第八項 肛門ノ壓出……………349
灌水時ノ注意……………342	肛門壓出ニ對スル處置……………349
第二項 急性貧血……………397	第九項 熱性病……………349
原因……………397	第八章 產婦ノ死亡……………350
症狀……………398	原因……………350
處置……………398	死亡時ノ處置……………350
第三項 子宮內翻症……………316	第七編 異常產褥……………358
原因……………316	第一章 生殖器及ビ周圍器官ノ異常……………358
全及ビ不全內翻症ノ別……………316	第一項 分娩後ノ強陣痛……………358
症狀……………316	強陣痛ヲ發スル動機……………358
診察上ノ處見……………317	強陣痛ニ對スル注意……………358
正復法……………317	第二項 胎兒附屬物ノ遺殘……………359

處置……………359	發病經過……………370
第三項 子宮ノ復故不全……………360	本病ニ侵サル、器官……………370
原因……………360	症狀……………370
豫防法……………360	第七節 產褥熱ニ對スル
第四項 惡露ノ排泄異常……………361	處置……………371
排泄異常ノ種類……………361	第二項 痲疾……………371
排泄異常ニ對スル注意……………361	發病及ビ原因……………371
第五項 便通異常……………361	症狀……………372
便秘……………361	痲疾ノ蔓延……………372
下痢……………361	豫防法……………372
第六項 腔及ビ外陰部ノ創傷……………362	第三項 丹毒……………373
第七項 陰唇及ビ會陰ノ腫起……………362	第四項 破傷風……………373
第八項 陰唇及ビ大腿ノ糜爛……………362	第三章 分娩後ノ偶發病……………374
第九項 子宮ノ位置異常……………363	第一項 靜脈血栓……………374
第十項 排尿障害……………363	靜脈血栓ノ意義……………374
尿閉……………363	發病經過……………374
尿失禁……………364	症狀……………374
尿瘻……………364	處置……………374
第二章 分娩後ノ傳染性疾病……………365	第二項 白股腫……………375
第一項 產褥熱……………365	原因……………375
第一節 原因……………365	症狀……………375
第二節 日本ト外國トノ比較……………365	經過……………375
第三節 消毒法ノ必要ナル理由……………366	第三項 下肢ノ麻痺……………375
第四節 種類……………368	第四項 精神異常……………376
第五節 敗血症狀產褥熱……………368	原因……………376
發病經過……………368	種類……………376
全身症狀……………368	第五項 乳房ノ疾病……………376
局部症狀……………368	第一節 乳腺炎……………376
精神狀態……………369	原因……………376
第六節 膿毒症性產褥熱……………370	症狀……………377
	豫防法……………377
	第二節 乳頭ノ損傷……………377
	原因……………377
	豫防法……………377

第三節 乳汁ノ排泄異常378
 過泄……………378
 乳汁漏……………378

第八編 小兒ノ營養及ビ疾病
 第一章 初生兒ノ取扱法
 第一項 臍帶ノ結紮法……………149
 單胎……………149
 雙胎……………156
 第二項 沐浴……………179
 溫度及ビ湯量……………179
 胎脂ノ除去……………180
 頭部ノ洗滌……………180
 身軀ノ検査……………180
 第三項 浴後ノ處置……………181
 臍帶ノ處置……………181
 身軀ノ清拭……………181
 小兒ノ着衣……………181
 襁褓及ビ其交換……………181
 第四項 小兒ノ就床……………181
 室内ノ溫度……………182
 第五項 小兒ノ點眼……………182
 第六項 小兒ノ戶外運動……………188
 運動時ノ注意……………188

第二章 初生兒ノ生理……………183
 軀溫及ビ脈搏……………183
 軀重……………183
 尿及ビ胎便……………183
 小兒ノ皮膚上ノ注意……………184
 臍帶ノ注意……………185
 臍帶ノ脫離……………185
 哺乳……………185
 吐乳……………186
 啼泣……………186
 接吻ノ害……………186
 睡眠……………187

第三章 初生兒ノ營養……………188
 第一項 母乳ノ必要……………188
 第二項 乳母……………189
 年齡……………189
 軀格……………189
 出產ノ時期……………189
 身軀及ビ乳房ノ検査……………189
 乳房及ビ乳頭……………189
 乳汁……………189
 乳母ノ食物……………189
 第三項 牛乳……………190
 牛乳ノ消化力……………190
 牛乳ノ稀釋法……………190
 煮沸法……………191
 哺乳器……………191
 用量……………191
 母牛ノ食物……………191
 第四項 コンデンスドミルク……………191
 稀釋法……………191
 第五項 米粥及ビ小兒粉……………192

第四章 分娩時胎兒ノ死亡……………350
 原因……………350
 死亡前ノ徵候……………351
 診斷……………351
 外診上ノ處見……………351
 內診上ノ處見……………351
 死兒ノ分娩……………352

第五章 假死……………352
 第一項 原因……………352
 第二項 假死ノ輕重……………353
 快復ノ見込ナキ徵候……………353
 第三項 處置……………354
 口中ノ清拭……………354
 氣管内粘液ノ吸出……………354

刺戟法……………354
 小兒ノ蘇生法……………355
 快復時ノ徵候……………355

第四項 人工呼吸法……………356
 シュルチエ氏ノ法……………356
 緒方氏ノ法……………357
 手術時ノ注意……………358
 手術後ノ危險……………358

第六章 初生兒ノ發育異常及ビ疾病……………378
 第一項 先天性異常……………378
 鎖肛……………378
 尿道閉鎖……………378
 贅指趾……………379
 兔唇……………379
 脫腸……………379
 陰囊水腫……………379
 頭血腫……………380
 產瘤トノ區別……………380

第二項 分娩時ニ發スル疾病及ビ外傷……………380
 眼炎……………380
 骨折……………381
 脫臼……………381
 麻痺……………381

第三項 分娩後ノ疾病……………382
 第一節 臍帶ノ疾病……………382
 出血……………382
 糜爛……………382
 化膿……………383
 脫腸……………383
 第二節 乳腺炎……………383
 第三節 鷺口瘡……………383
 鷺口瘡ノ意義……………383
 症狀……………383

原因……………384

第四節 「アフテ」……………384

第五節 腸胃ノ疾病……………385
 下痢……………385
 便秘……………385
 嘔吐……………386

第六節 初生兒ノ脚氣……………386

第七節 皮膚ノ疾病……………386
 皮膚ノ攝生法……………386
 汗疹……………387
 糠秕疹……………387
 溫疹……………388
 單純性大水泡疹……………388
 微毒性水泡疹……………388
 生後ノ發病……………389
 豫后……………389
 丹毒……………389
 破傷風……………389
 「メレナ」……………390
 鞏皮病……………390

第八節 早産兒及ビ發育不良兒ノ養育……………390
 新陳代謝增進法……………390
 身軀及ビ室内ノ溫法……………391
 授乳法……………391
 清潔法ノ注意……………391

第九編 産科用器械……………392
 産科鉗子……………392
 牽顯器……………393
 碎頭器……………393
 骨鉗子……………393
 鈍鉤……………393
 斷頭鉤……………393
 回轉紐……………393

第十編 「クロ、フアルム」吸入

法	394
┌クロ、フタルム┐ 應用	
ノ目的	394
┌クロ、フタルム┐ 代用	
品	394
┌クロ、フタルム┐ 摩酔	
ノ經過	394
┌クロ、フタルム┐ 吸入	
法	395
吸入前ノ用意	395
摩酔中ノ狀況	396
呼吸及ビ脈搏	396
瞳孔ノ狀況	396
嘔吐ニ對スル注意	396
呼吸困難ニ對スル處置	396
摩酔仲止時ノ狀況	397
終リ	

產婆學問答

第一問 骨盤トハ如何ナルモノナルカ及ヒ其男女ニ於ケル區別如何。

答 骨盤トハ軀軀ノ下部ニ位シ脊椎骨ト兩下肢骨ヲ連接セシムル骨管ニシテ薦骨尾骶骨及兩側ノ臑骨ヨリ成リ内ニ膀胱及直腸ヲ藏スルモノナルガ女子ニ於テハ此外子宮卵巢喇叭管等ノ要部ヲモ包容シ分娩ニ際シテハ腹腔内ニテ發育シタル胎兒ヲ通過セシムル要アルヲ以テ其構造如何ンハ女子ノ生理上殊ニ必要ナリ。骨盤ノ後壁ヲ形成スル扁平三角形ノ薦骨ト其下方ニ位スル同形ニシテ甚々小ナル尾骶骨ト側壁及前壁ヲ形成スル不齊扁平ナル大臑骨ハ互ニ接續シ上方ニテハ濶大ニシテ後壁ニテハ更ニ第五腰椎ト共ニ稍圓形ノ骨壁ヲナシ前方ハ腹壁下部ヲ以テ骨部ノ欠損ヲ補ヒ以テ上方ハ廣ク下方ハ狹キ漏斗狀ヲナスモノニシテ之ヲ大骨盤ト稱シ其ヨリ下方ハ前壁ハ短ク後壁ハ長キ管行ヲ形成シ小骨盤ト稱シ無名線ト稱スル骨上ノ線ヲ以テ大小骨盤ノ境界ヲ畫ス。大骨盤ハ濶大

ナルヲ以テ多少ノ異常アルモ甚シキ障害ナキモ小骨盤ハ周壁骨質ニシテ且ツ管腔狹隘ナルヲ以テ些少ノ異常アルモ分娩ニ障害ヲ及ホス₁甚タシ。故ヲ以テ骨盤ハ果シテ尋常ナルヤ否ヤヲ確定スル爲メ産科學上之ヲ骨盤入口部骨盤廣部及骨盤出口部ノ三ニ區別シ之ヲ計測ス。骨盤入口部トハ後方ハ薦骨岬兩側ハ無名線前方ハ耻骨櫛ヨリ形成セラレ形チ横橢圓形ヲナシ薦骨岬部ハ稍内方ニ凹ミ耻骨縫合部ハ少シク尖リタルモノニテ日本婦人ニテハ其矢狀徑ハ十仙迷横徑ハ十一仙迷斜徑ハ十二仙迷半ヲ算ス。骨盤腔トハ入口ト出口ノ間ヲ云ヒ後壁ハ薦骨及尾骶骨側壁ハ坐骨及腸骨ノ下部前壁ハ左右ノ耻骨ヨリナル部ニシテ横徑ハ前後徑ヨリ却テ短キモノニシテ之ヲ廣部狹部ノ二部ニ區別ス。骨盤廣部ハ薦骨ノ第二及ヒ第三椎ノ連合部ト耻骨縫合後面ノ中央部トヲ連結スル部ヲ云ヒ骨盤腔中ノ最モ廣キ部ニシテ日本婦人ニテハ其矢狀徑ハ十仙迷半横徑ハ十仙迷斜徑ハ十一仙迷半ナリ。骨盤狹部トハ薦骨及尾骶骨ノ關節部ト耻骨縫合下緣ヲ連結スル部ヲ云ヒ骨盤腔中最モ狹キ部位ニシテ其矢狀徑ハ九仙迷半横徑ハ

九仙迷斜徑モ亦タ九仙迷ナリ。骨盤出口部トハ後方ハ尾骶骨ノ尖端兩側ハ坐骨關節前方ハ耻骨縫合下緣ヨリナル部ニシテ其形ハ殆ント圓ク矢狀徑横徑斜徑共ニ九仙迷ナレ₁尾骶骨ハ其薦骨トノ關節ヲ以テ小運動ヲナシ分娩ノ際ニハ後方ニ壓排セラル、ヲ以テ矢狀徑延長セラル、₁ハ入口部ノ反對ニテ矢狀徑横徑ヨリ長クナルナリ。骨盤ハ前述ヘタル如ク一ノ管口デア₁ルガ其入口部ト出口部トノ距離ヲ骨盤ノ高徑ト稱シ後壁即薦骨岬ヨリ尾骶骨ノ尖端迄ハ長サ十二乃至十三仙迷前壁即耻骨縫合上緣ト下緣ノ距離ハ僅カ四仙迷ヲ過ギサレバ其長サハ後壁ノ約三分ノ一二過キス。故ニ入口部ヲ畫スル平面ハ出口部ノ平面ト平行セス直立ノ位置ニ於テ薦骨岬ハ恥骨縫合上緣ヨリ約十仙迷上方ニアリテ其平面ハ地平線ニ對シ一ノ角度ヲ生ズ之ヲ骨盤ノ傾斜ト稱シ臀部ノ後方ニ突出スルト否トニヨリ多少其度ヲ異ニス。骨盤ハ斯クノ如ク傾斜スルヲ以テ其ノ管行ハ鉛垂ナラス彎曲ヲナシ骨盤各部直徑線ノ交叉点ヲ通シテ線ヲ引ケバ恰モ恥骨縫合部ヲ中心トシテ畫キタル曲線ヲナスモノニシテ之ヲ骨盤軸ト稱ス。骨

盤ノ形狀ハ男女素ヨリ同一ナレドモ婦人ハ其體格男子ニ比シ細小ナルニ拘ラズ
 骨盤及ビ大腿ハ却テ男子ヨリ太キモノアリ。 筋肉モ亦婦人ニアリテハ小ニシ
 テ皮下脂肪多キヲ以テ身體ハ柔軟ナレドモ腰部ノ發育ハ大ニシテ男子ハ胸部頑
 強ニシテ下方ニ向ヒ漸次狹小トナルニ反シ女子ニテハ胸部狹小ニシテ腰部却テ
 強大ナルヲ以テ異ナリトス。 是レ畢竟骨盤カ生理上重大ナル任務ヲ有シ其内
 ニ生殖器ヲ藏スルノミナラズ分娩ノ際胎兒ヲ通過セシムルノ要アルニ坐スルヲ
 以テ骨盤ノ形狀ニ於テハ以下述ルカ如キ差異アリ。

骨盤各部

男子

女子

全形

狹小ニシテ長シ

寛大ニシテ短カシ

入口ノ形狀

心臟形

橢圓形

骨盤腔

小ニシテ高シ

潤大ニシテ低シ

出口

狹隘

寛大

薦骨及尾附骨

長クシテ少シク後方ニ突出

短カクシテ強ク後方ニ突出

坐骨及ビ恥骨

長シ

短カシ

恥骨縫合横徑

狹シ

廣シ

恥骨弓ノ角度

狹クシテ約七十五度

廣クシテ九十度強

右ノ如クシテ女子ノ骨盤ハ男子ニ比スレハ概シテ寛大ナリ。

第二問 妊娠トハ如何ナルモノカ。

答 妊娠トハ婦人受胎シテヨリ分娩スルマデノ期間ヲ云ヒ之ヲ十ヶ月ニ區別
 スレトモ日數ハ二百八十日即チ四十週ナルヲ以テ太陽曆ニテハ約九ヶ月ト一週
 間ナリ。 受胎トハ卵子内ニ精蟲浸入スル作用ニシテ生育シタル婦人ニ於テハ
 卵巢中ノ「グラーフ」氏濾胞毎月一個宛成熟破裂シ卵子ヲ噴出スルガ此ノ際子宮
 ハ反射的作用ニテ充血ヲナシ粘膜炎腫起シ腺ハ肥大シ柔軟トナルモノニテ偶々
 精蟲子宮内ニ浸入スレバ卵子ト邂逅シ妊娠トナレドモ然ラザル時ハ粘膜炎破裂レ
 腺液ト共ニ排除セラル、モノニテ所謂月經ヲ發ス。 故二月經ハ生殖器成熟シ

該婦人が受胎シ得ルニ至ル事ヲ証明スルモノニシテ日本ニテハ齡十四年五ヶ月ガ其平均年齡デ有ツテ此年齡ニ達スレバ春情發動期ト稱シ生後此ノ年齡ニ達スルマデハ身體ノ他部漸次發育スルニ拘ラズ殆ト同一状態ニアリタルモノ俄ニ發育ヲ始メ子宮肥大シ耻毛ヲ生ジ臀部豐滿トナリ乳房モ又發育肥大スルモノニテ爾後月經ハ二十年乃至三十五年持續スルモノニテ此間ハ毎月一回宛卵巢中ノ「グラーフ」氏濾胞墜下スルヲ以テ何時ニテモ機會ダニアラバ受胎スルモノナリ男子ニテモ同ジク生殖器ハ春情發動期ニ達シ始メテ發育スルモノニテ耻毛ヲ生ジ陰莖肥大スルト同時ニ睪丸内ニ於テ精蟲ノ製造ヲ始メ機ニ望ミ射精スルコトヲ得ルニ至ルモノニテ此年齡ハ女子ヨリ稍々遅ク日本ニテハ十六七乃至十八九歳デアルガ此時期ニ至レバ音聲低調トナリ鬚髯ヲ生ズベシ。而シテ精蟲ハ長サ〇、〇五密迷蝌蚪ノ形ヲナシ精液内ニ於テ活潑ニ運動シ得ルモノニテ卵子ガ一ヶ月一個ノミ製造セラル、ニ反シ間斷ナク睪丸内ニテ製造セラレ精液ト共ニ排泄セラル、モノニシテ精液一滴中ニハ數百ヲ存シ「アルカリ」性液中ニテハ長

ク生存シ得ルヲ以テ子宮内ニ於テハ一週間ノ生命ヲ存シ且ツ能ク運動スルヲ以テ喇叭管ヲ逆行シ偶々墜下シ來ル卵子内ニ一絲浸入スレバ即チ足ルモノニシテ斯ノ如クシテ受胎シタル卵子ヲ妊孕卵ト稱ス。妊孕卵ハ子宮内ニ達シ粘膜炎ニ附着スレバ粘膜炎ハ直ニ増殖肥厚シ卵子ヲ圍擁スルモノニシテ此際卵子モ又變化ヲ始メ周圍ニハ被膜ヲ生ジ卵子自己ハ橢圓形ノ肥厚部ヲ生ジ漸次周縁ヨリ捲屈シ一端ハ膨大シテ頭トナリ他ノ一端ハ臀部トナリ中央集合部ハ臍部トナルモノニシテ是即チ胎兒ナリ。胎兒ハ當初之ヲ圍擁シタル子宮粘膜炎即チ脱落膜ヨリ營養ヲ取レドモ漸次發育肥大シ三ヶ月ヲ經レバ胎兒ノ被膜ト子宮粘膜炎トノ間ニハ間隙ヲ存セザルニ至ルモノニテ此際所謂卵床脱落膜ハ變ジテ胎盤トナリ他ノ部分ハ菲薄トナルト同時ニ胎兒ハ羊膜ト稱スル内膜トノ間ニ羊水ヲ生ジ胎兒ハ臍帶ヲ經テ胎盤ヨリ營養ヲ攝ルニ至ル。妊娠ニハ前述ノ如ク胎兒ノ外卵膜胎盤臍帶羊水等ノ發生ト又其健全ナル發育アルヲ要シ且ツ之ヲ營養スルニ足ル底ノ血液ヲ供給セザルベカラザルヲ以テ妊婦ノ身体ハ頗ル健康ナラザルベカラズ。

胎兒及其附屬物母体共ニ異常ナク圓滿ナル妊娠經過ヲ取ルモノヲ正規妊娠ト稱シ其一二圓滿ヲ缺クモノヲ異常妊娠ト稱シ妊娠經過中ニ胎兒死亡シ或ハ然ラザルモ妊娠中絶シ胎兒ヲ外部ニ排除スルコトアリ流産又ハ早産ト稱スルハ即チ是ナリ。

第三問 卵膜胎盤及ビ臍帶ノ發生及ビ其變化構造等ヲ説明セヨ。

答 卵膜ハ脫落膜絨毛膜羊膜ノ三層ヨリナルモノニシテ脫落膜ハ子宮粘膜炎ヨリ形成セラレ絨毛膜及ビ羊膜ハ卵子ヨリ發生ス。當初妊孕卵子宮内ニ來リ其ノ一壁多クハ後上方ニ附着スルヤ恰モ充血ノ頂上ニ達シタル粘膜炎ハ直チニ増殖シ卵子ヲ被包スルモノニテ其附着シタル部ヲ卵床脫落膜ト稱シ卵子ヲ被包スル部ヲ翻轉脫落膜ト稱シ又喇叭管口部ヲ除ク外子宮内膜ノ全部ヲ眞脫落膜ト稱シ此モ亦増殖肥厚スルモノニテ初メ眞脫落膜ト翻轉脫落膜トノ間ニハ間隙ヲ生スレドモ卵子成長スルニ從ヒ漸次接近シ三ヶ月ニ至レバ互ニ密着シ膜ハ菲薄トナ

ル。絨毛膜ト羊膜ハ卵子ヨリ發生スルモノニシテ絨毛膜ハ脫落膜ト羊膜トノ間ニアリ無數ノ絨毛ヲ生シ恰モ栗殻ガ粘土ノ上ニ落下シテ其ノ刺ヲ土中ニ没シタルガ如クシ其ヨリ營養物ヲ吸収スレドモ後ニハ消失シ二ヶ月ノ末ニ至レハ卵ノ附着部即チ胎盤部ヲ除クノ外ハ薄キ透明ノ膜ト變ス。羊膜ハ胚板周圍ヨリ發生シ胎兒ニ接着スルモノナルガ胎兒發育シ其ノ周圍ニ羊水ヲ生スルニ及ビ漸次離隔シ絨毛膜ト密着シ卵膜三層中最モ内方ニ位スルモノニテ臍帶ヲ圍擁シ其鞘ヲ形成シ臍部ニ於テ胎兒ノ外皮ニ移行ス。故ニ妊娠ノ初期ニ於テハ卵子周圍ノ膜ハ厚クシテ卵子ヲ營養スレドモ後ニハ菲薄トナリ分娩ノ際ニハ三層ノ膜ハ存スレドモ恰モ紙ヲ合セタル如クニシテ注意セザレバ數葉アルモノトハ思ハレズ且ツ後産トナリテ胎盤ト共ニ排除セラルル時ハ翻轉シ内層ノ羊膜外面ニ顯レ外層ノ脫落膜内部ニ陰レテ出ヅルナリ。

胎盤ハ受胎卵ガ子宮ノ内膜ニ附着シ該部ニ於テ子宮粘膜炎即チ卵床脫落膜ト絨毛膜ガ互ニ癒合肥厚シ以テ之ヲ形成スルモノニシテ妊娠二ヶ月迄ハ卵子ノ周圍

ヨリ營養ヲ取レドモ二ヶ月以後ニナレバ卵子ノ附養セシ部位即チ胎盤ノ部位以外ハ漸次菲薄トナリ唯卵子ヲ被包スルノ膜ト變ズルヲ以テ妊娠中胎兒ヲ營養スル唯一ノ器管ハ胎盤ナリ。胎盤ノ發生スル部位ハ即チ卵子ガ子宮ニ附着スル部位ニシテ多クハ子宮ノ底部ニ近キ前壁若シクハ後壁ナレドモ數回妊娠シタル人ニテ子宮内腔擴潤ナル人ニテハ子宮口部ニ附着シ所謂前置胎盤ヲ起シ甚ダ危険ニ陥ルコトアリ。胎盤ハ扁平圓形ニシテ重量五百瓦直徑十六乃至二十仙迷アリ厚サハ中央ニテハ三仙迷アレモ周縁ニ近ヅケバ漸次菲薄トナルモノニシテ其全部ハ殆ント血管ノ擴張シテ腔狀ヲナスモノヨリ成立シ海綿狀ヲナシ外面ハ子宮ト嵌合密着シ凹凸不平暗紫赤色ヲナシ内面ハ羊膜ヲ以テ被ハレ平滑ニシテ帶青赤色ナリ。胎兒ヲ養ヒタル血液ハ二個ノ臍帶動脈ニヨリ臍帶ヲ經テ胎盤ニ達シ樹枝狀ニ分岐シ其末端ハ稍々膨隆シ母胎ノ子宮動脈ガ等シク稍々膨隆シタル部位ト胎盤内ニ於テ互ニ接着シ交流作用ニヨツテ營養分少ナキ胎兒ノ血液營養分ニ豊富ナル母体ノ血液ト交換セラレ再ヒ臍帶靜脈ヲ經テ胎兒ニ返リ行

ク。故ニ胎盤ハ胎兒ニ於ケル腸胃及ビ肺ノ作用ヲ一器管内ニ於テ行フモノニシテ胎盤内面上ニ於テ恰モ蓮葉ノ如キ形狀ヲ呈スルモノハ動靜脈管ガ該部ニ現レタルモノナリ。臍帶ハ胎兒ト胎盤トヲ接續セシムル子宮腔擴張セラレ羊水發生スルニ從ヒ漸次形成セラレ、モノニシテ小指大不正圓形ノ帶紐ヲナシ胎兒ノ臍部ヨリ發シ多クハ胎盤ノ中央稀レニハ其ノ側方或ハ周縁ニ附着ス。

臍帶ハ二個ノ動脈一個ノ靜脈ヨリナリ「ワルトリン」氏酸肉ト稱スル結締織様物ヲ以テ其ノ間隙ヲ填テ外ハ羊膜ノ接續ナル臍帶鞘ト稱スルモノヲ以テ圍擁セラレ脈管ハ胎兒側ヨリ見テ右ヨリ左ニ捻振シ往往一部ニ於テ突出ヲナシ結節狀ヲナス事アリ。其長サハ四十八乃至五十仙迷アリテ常ニハ腹前ニ於テ四肢ノ間ニ蟠居スレドモ時トシテハ頭部又四肢ヲ纏絡シ又稀ニハ自ラ結ハル事アルモノニテ自ラ突出シテ結節ノ形狀ヲナス所ノ假結節ニ對シ之ヲ眞結節ト稱ス。臍帶動脈ハ胎兒ヲ養フタル不要分ヲ含有スル暗赤色ノ血液ヲ含ミ胎兒心臟ノ搏動ニ從ヒ一分間約ソ百四五十回ノ搏動ヲ呈シ暗黒ナル靜脈ハ胎盤ニ於テ滋養分

ヲ含有スル鮮紅色ノ血液ヲ胎兒ニ供給スルモノニシテ胎兒ノ營養ハ偏ニ臍帶ノ媒介ニ待タサルベカラス。

第四問 成熟胎兒トハ如何ナルモノヲ云フカ。

答 成熟胎兒トハ母体内ニ於テ充分ノ發育ヲナシタルモノ即チ二百八十日間子宮内ニテ能ク養ハレタル胎兒ニシテ産出スレバ自カラ能ク生活シ得ルモノヲ云フ。二百八十日ヲ經サルモノト雖モ既ニ七ヶ月以上ヲ經テ身体各部發育スルモノニテハ全ク生存シ得ザルニアラズ特別ノ介補ヲ加フレバ生後能ク發育スルコトナキニアラザレドモ自カラ乳汁ヲ吸ヒ又体温ヲ保持スルコト困難ナルヲ以テ多クハ死亡スルモノニシテ之ヲ成熟胎兒ニ對シ未熟胎兒ト稱ス。成熟胎兒ハ軀幹四肢共ニ皮下脂肪ヲ存シ圓滿トナリ全身ニ生ジタル毳毛ハ消失シ頭部ニ於ケル頭髮ハ密生シ四五仙迷ニ達シ頭部ト軀幹ハ適當ナル割合ヲ保チ皮膚ハ赤色ヲ呈シ多少ノ胎脂ヲ附着シ頭蓋骨ハ硬固トナリ鼻耳等ノ軟骨モ又堅クナリ

臍帶ハ腹部ニアリテ小指大ヲナシ臍輪ニ附着シ手足ノ爪ハ硬クシテ指尖ニ突出シ男子ニテハ睪丸陰囊内ニ下垂シ女子ニテハ大陰唇豐隆シテ小陰唇ヲ被ヒ分娩スレバ直ニ四肢ヲ動シ眼ヲ開キ高聲ヲ放テ啼泣シ指頭又乳嘴ヲ口中ニ入ルレバ直ニ哺乳運動ヲ試ミ數分ノ後尿及胎糞ヲ漏ス。胎兒ノ大小輕重ハ母體ノ體格ニ關シ一定セズ日本人ハ歐米人ニ比スレバ概シテ小ニシテ身長四十八仙迷體量三千瓦肩胛廣徑九仙迷ヲ通常トス。然レドモ成熟胎兒ニ最モ必要ナル標徴ハ頭蓋ニシテ初生兒ノ頭蓋ハ二個ノ前頭骨二個ノ顛頂骨二個ノ顛顛骨ト一個ノ後頭骨ヨリナリ大人ニテハ骨緣鋸齒狀ヲナシ互ニ連接スレドモ初生兒ニテハナス膜狀ノ靱帶ニ依テ互ニ結合セラレ周圍ヨリ壓迫スレバ互ニ接近シ時ニ或ハ相重ナル事ヲ得ルヲ以テ分娩ニ際シ頭部ノ周圍ハ骨盤ニ比シ稍々大ナルモ能ク産道ヲ通過スルヲコト得。故ニ胎兒ノ分娩ニ於テハ頭骨ノ境界ヲ明ラカニスルコト必要ニシテ左右前額骨間ヲ前頭縫合ト稱シ前頭顛頂骨間ヲ冠狀縫合左右顛頂骨間ヲ矢狀縫合顛頂後頭骨間ヲ後頭縫合ト稱シ前頭冠狀矢狀ノ三縫合間ニアル

菱狀ノ部ヲ大顛門後頭及矢狀ノ二縫合間ニアル三角窩ヲ小顛門ト稱シ又冠狀縫合ノ兩端ト後頭縫合ノ兩端ニ前後各一對ノ小間隙アルモノヲ側顛門ト稱ス。惣テ此部位ニハ骨缺損スルヲ以テ柔軟ニシテ頭蓋内血液ノ循環ニ從ヒ搏動ヲ呈スルモノナルガ就中大ナルヲ大顛門トス。頭部ノ大サハ分娩上特ニ必要ナルヲ以テ之ヲ計測スルノ要アリ前額中央ヨリ後頭結節ニ達スルモノヲ直徑線ト稱シ十一仙迷冠狀縫合ノ最大距離ハ前側顛門ノ距離ニシテ小橫徑線ト稱シ九仙迷半大顛門ノ中央ヨリ頂窩ニ達スル線ヲ小斜徑線ト稱シ九仙迷半小顛門ヨリ頤部ニ達スル線ヲ大斜徑線ト稱シ十二仙迷而シテ前額中央ヨリ兩側顛頂骨ト顛顛骨トノ間ヲ經後頭結節ニ至ルモノヲ頭部ノ周圍徑ト稱シ三十三仙迷ナリ。

第五問 胎兒ノ生活狀況ヲ説明セヨ。

答 卵ハ最初卵ノ周圍ニアル絨毛膜ヨリ營養物ヲ取レドモ四五週間ヲ經レバ卵ノ附着部ハ漸次肥厚シ胎盤ヲ形成スルニ至レバ胎盤ニ於テ營養物ヲ給スルニ至ルモノニシテ胎盤ノ交流作用ニ依リ養ヒタル血液ハ炭酸其他ノ老廢物ヲ母體

ノ血中ニ輸リ母體ヨリ蛋白質鹽類等身體營養ニ必要ナル血液ヲ攝收スルモノニシテ此血行ハ胎兒心臟ノ運動ニ依リテ行ハル。故ニ胎兒ハ子宮内ニ於テハ自カラ呼吸ヲ營ムコトナク營養ニ要スル血液ヲ母體ヨリ攝收スルモノニシテ之ヲ胎兒ノ無呼吸ト稱スルガ若シ胎盤又ハ臍帶ニ障害ヲ起シ血行ニ異常ヲ發スル時ハ胎兒ノ體中ニ於テハ酸素ハ缺乏シ炭酸ハ過剩トナルヲ以テ無呼吸ヲ繼續スルコト能ハズシテ肺ノ運動ヲ起シ羊水ヲ吸入スルモノニシテ之ヲ早時呼吸ト稱シ胎兒ハ假死ニ陥ルガ其時間五分以上ヲ經ル時ハ眞死トナルモノニテ母體頓死スル時ニ於テモ同ジク死後直ニ胎兒ヲ分娩セシムルニアラザレバ絶命ス。胎兒ノ心臟ハ其搏動數男女又ハ其外ノ狀況ニ依リ一定セザレドモ百四五十至ニシテ母體ノ腹部ニ於テハ五ヶ月以後ニアラザレバ之ヲ聽取スルニ困難ナレドモ胎盤及臍帶ヲ形成スレバ直ニ其運動ヲ始ムルモノニテ肺ノ作用ハ全ク缺如シ血液ハ專ラ胎盤ニ於テ新鮮トナルヲ以テ大人トハ大ニ其趣ヲ異ニス。胎盤ニ於テ母體ヨリ攝收シタル營養豐富ノ鮮紅色ヲナス動脈血ハ一條ノ臍帶靜脈ニ依リ臍輪

ヲ經テ肝臟ノ下面ニ達シ此處ニテ二部ニ分レ一部ハ「アランチー」氏靜脈管ヲ經テ直ニ下大靜脈内ニ注ギ一部ハ肝臟内ニテ肝臟ノ循環ヲナシタル血液ト共ニ肝臟ヲ出デ下大靜脈内ニ入ルモノニテ下大靜脈ハ頭部ヲ循環シタル上大靜脈ト共ニ心臟ノ左上房ニ達ス。胎兒ノ心臟ハ左右上房間ニ卵圓孔ト稱スル孔アリテ互ニ通ズルヲ以テ心臟收縮スレバ其一小部ハ右室内ニ入レドモ大部分ハ卵圓孔ヲ經テ左上房ニ注グモノニシテ右室ニ入りタル血液ハ更ニ「ボタリー」氏動脈管ヲ經テ大動脈ニ注ギ僅カニ一部ノミ肺動脈ニ入ル。肺動脈ハ此際猶ホ未ダ其用ヲナサザルヲ以テ甚ダ小ニシテ之ヲ循環スルモ血液ハ爲ニ新鮮トナルニアラズ變化ナクシテ其儘肺靜脈ヲ經テ左上房ニ入り當初卵圓孔ヲ經テ右上房ヨリ入り來リタル血液ト共ニ左室ヲ經テ大動脈内ニ出ヅ。大動脈内ニテハ「ボタリー」氏動脈管ヲ經テ右室ヨリ注入シタル血液ト合シ共ニ全身ヲ循環ヲナスモノニシテ身體ノ下部ヲ循環シタル血液ハ膀胱ノ側部ニ於テ分岐シ二條ノ臍帶靜脈トナリ胎盤ニ達ス。故ニ胎兒ニテハ全身ヲ循環スル血液ハ純粹ノ動脈血ニアラズ

少シク靜脈血ヲ混スルモノニシテ臍帶靜脈ノミハ新鮮ナル動脈血ナレモ既ニ下大靜脈ト合スレハ靜脈血ヲ混スルニ至ルモノニテ臍帶動脈ニテハ老廢物ト炭酸ニ富ミタル暗紫色ノ純靜脈血ナリ。

第六問 妊娠中如何ニシテ胎兒ノ分娩時期ヲ知り得ルカ

答 妊娠ノ持續期間ハ二百八十日ナルヲ以テ妊娠終末月經ノ時期ヲ記憶スルトキハ其ノ第一日ヨリ起算シ第二百八十日ニ相當スル日ヲ以テ分娩ノ日ト決定スレハ略々之ト相當スルモノニテ初妊ノ婦人ニテハ稍々後レ數回分娩セシ婦人ニテハ稍々早クナルヲ常トス。然レドモ第一日ヨリ二百八十日ト指折り算フルハ頗ル煩雜ナルヲ以テ該月ヨリ起算シ九ヶ月ニ七日ヲ加フレバ大凡二百八十八日ニ相當ス例之ハ最終月經本年四月十五日ヨリ五日間持續シタリトスレバ明年一月十五日ニ七日ヲ加ヘ一月二十二日ヲ分娩ノ日ト定ムルガ如シ。今一法ハ妊婦ガ始メテ胎動ヲ自覺シタル日ヨリ二十週ニ相當スル日ヲ分娩ノ期日トスル

モノニシテ妊婦ハ妊娠ノ中間即チ百四十日目ニ胎動ヲ自覺スベシトノ實驗ヨリ割出シタルモノナレドモ之ヲ自覺スルノ遲早ハ能ク我身体ニ注意スル人ト然ラサル人トニヨリテ異ナルヲ以テ此算出法ハ甚ダ確實ナラス。最終月經ノ時ヨリ計算スル法ハ最モ確實ナレドモ月經ハ不順ニシテ屢々缺如スルモノアリ又分娩後一回モ月經ヲ見スシテ妊娠スルモノアリ又最終月經ノ日ヲ記憶スト云フ人ニアリテモ誤謬ナキニアラズ特ニ結婚前情夫ヲ有シタル婦人ニテハ故意ニ月經ノ期日ヲ詐ル人アリ此等ノ妊婦ニ對シテハ月經ノ閉止期ヲ其身体ノ狀況ニ參照シテ期日ヲ定ムル外ナシ。

産婆ニ於テ妊婦ヲ診察スルハ多ク五ヶ月後ニシテ其ノ前ニハ之ヲ見ルコト稀レナリト雖氏萬一之ヲ診察スルコトアリトセバ初メ一ヶ月ニ於テハ腔内分泌物増加シ温暖トナリ子宮稍々増大シ腔部甚ダ柔軟トナリ所謂「ヘーガル」氏ノ妊娠徵候ヲ呈シ腔部ハ殆ド消失スルガ如キ感ヲ覺ヘ加フルニ胃部ノ苦悶食物ノ嗜好變シ時ニ或ハ嘔氣ヲ催ス等ノ全身症狀ヲ呈スルニ過ギザルモ第二ヶ月ニ至レバ子

宮ハ鶯卵大トナリ腔部ハ以前ニ比スレバ稍々硬固トナリ恰モ子宮ト兩斷セララルガ如キ感ヲ覺エ三ヶ月ニ及ベバ手拳大トナリ小骨盤内ヲ充填シ尿意頻回トナリ便秘ヲ起シ下肢ノ疼痛又浮腫ヲ發シ加フル乳房緊滿シ腔外陰部白條乳暈等ノ着色ヲ呈スルヲ以テ妊娠ナルコトヲ知ル。然レドモ子宮ノ腫瘍炎症等ニテモ子宮ハ増大スルコトアレバ往々其辨別至難ナルコトアルヲ以テ産婆ニ於テハ誤診ノ恐レナキニアラザレバ寧ろ醫師ノ教ヘテ待ツヲ至當トス。第四ヶ月以後ニナレバ其診斷ハ比較的容易ニシテ從ツテ分娩期日ヲ推定スルコトモ亦比々容易ナリ。第四ヶ月末ニハ子宮兒頭大トナリ底部骨盤入口上ニ現ハル、ヲ以テ恥骨縫合上ニ於テ球狀物ヲ觸レ聽診上子宮血管ノ雜音及ビ胎動音ヲ聽クコトヲ得第五ヶ月ノ末ニ於テハ子宮底部ハ臍ト恥骨縫合ノ中間ニ位シ膀胱直腸其他骨盤内ノ子宮壓迫ニ起因スル症狀減退シ嘔氣浮腫等ハ稍々減シ觸診上胎兒ノ心音ヲ聽クコトヲ得第六ヶ月ノ末ニ至レバ子宮底部ハ臍ノ高サニ達シ胎兒各部ヲ觸知スルコトヲ得第七ヶ月ニ至レバ子宮底部ハ臍上一指横徑上ニ位シ下腹部及ビ乳房膨滿

シ妊娠線ヲ現ハシ第八ヶ月末ニ至レバ子宮底部ハ臍ト胸骨劍上突起トノ中間ニ達シ臍窩ハ平坦トナリ第九ヶ月ノ末ニハ子宮底部ハ心窩部ニ達シ側部肋骨弓ニ及ビ全腹部ヲ充填シ呼吸ハ胸部ノ壓迫ノ爲メ困難トナリ胎兒ハ荐リニ運動ヲナシ妊婦ハ強ク胎動ヲ自覺シ子宮ハ時々收縮ヲ發スル爲メ疼痛ヲ自覺シ第十ヶ月末ニ至レバ子宮底部ハ八ヶ月ト同シク臍ト劍狀突起ノ中間ニ位シ呼吸稍々輕易トナル。此際胎兒ノ頭部ハ骨盤内ニ固定セラレ底部ハ前方ニ傾クヲ以テ臍部ハ前方ニ突出シ腔外陰部ノ組織ハ弛緩柔軟トナリ膀胱直腸ハ再ビ壓迫セラレ荐リニ便意ヲ催シ腔内分泌ヲ増ス。此症狀ヲ月經閉止ノ時期ト比較シ符合スレバ之ヲ以テ妊娠期日ヲ確定スルヲ得レドモ前述ベタル如ク初妊婦ト經妊婦ニ於テハ多少相違アルヲ以テ其何レナルカヲ知ルコト又肝要ナリ即チ初妊婦ニ於テハ腹壁緊滿スレドモ經妊婦ニテハ弛緩シ爲メニ子宮底部ハ往々前方ニ突出シ上記ノ如キ正確ナル位置ヲ示スコトナク初産婦ニテハ兒頭妊娠末期ニハ骨盤内ニ固定サルレドモ經妊婦ニテハ分娩時ニ達スル迄腹腔内ニテ移動ス。子宮腔

部ノ狀況ハ初妊婦及ビ經妊婦ニテ全ク異ナリ初妊婦ニテハ漸次短縮シ末期ニ至レバ殆ンド消失スルモ子宮口ハ猶ホ狹小ナルニ反シ經産婦ニテハ腔部末期ニ至ル迄其形ヲ保持スルニ拘ラズ子宮口ハ早く既ニ開大ス。

第七問 妊娠中胎兒ハ如何ナル状態ヲ子宮内ニ於テ保持スルカ

答 妊娠中胎兒ハ子宮内ニ於テ可及的細小ナル状態ヲ保持スルモノニシテ背ヲ少シク屈シ頭部ヲ胸上ニ接セシメ上肢ハ肘關節ニテ屈曲シ左右前膊ヲ交叉セシメ胸上ニ安シ下肢ハ股及膝關節ニテ屈シ大腿ヲ腹壁ニ按シ下肢ハ互ニ交叉シ足踵ヲ臀部ニ接着セシメ四肢ノ間ニ臍帶ヲ存ス。此状態ニアルモノヲ正規ノ胎勢ト稱シ手足又頸ヲ伸展シ又ハ臍帶四肢或ハ頸部ヲ纏絡スルガ如キコトアレバ之ヲ異常ノ胎勢ト稱シ妊娠中殊ニ初期ニ於テ胎兒猶ホ大ナラス羊水比較的多キ際ニハ往々這般ノ異常ヲ呈スルヲアレドモ其胎勢ハ長ク保持スルモノニアラズ。此ノ状態ハ恰モ子宮内腔ノ形ニ適合スルモノニシテ其形ハ上部大ニシテ

下部小ナル卵圓形ナルヲ以テ臀部ハ潤大ニシテ頭部稍々小ナル卵圓形ヲナス處ノ胎兒ハ發育スルニ從ヒ漸次子宮全腔ヲ填ツルニ至ル。然レドモ胎兒ハ必ずシモ此位置ヲ保持スルニアラズ其長形即頭部ヨリ臀部ニ引キタル線ハ子宮ノ長徑即チ子宮底ヨリ子宮口ニ引キタル線ト一致スルニアラズシテ時ニ或ハ交叉シ又ハ斜徑トナルコトアリ之ヲ胎位ト稱シ子宮ノ長徑ト胎兒ノ長徑一致スルモノヲ縱位ト稱シ互ニ交叉スルモノヲ橫位ト稱シ斜メニアルモノヲ斜位ト稱ス。此位置モ亦羊水多キ初期ニ於テハ屢々變ズレドモ末期ニ於テハ長ク同位ヲ保持スルモノニシテ胎位中最モ多キハ縱位ニシテ斜位之ニ次キ橫位ハ極メテ稀ニシテ百回中六回ヲ出デズ。此胎位ハ妊娠中變スルヲナキテ正當トスレ共時ニ或ハ末期特ニ分娩ニ臨ミ之ヲ變シ斜位或ハ橫位縱位ニ變スルヲナキニアラズ。縱位ノ中ニモ亦々頭部ヲ上ニスルコトト下ニスルコトトアリ子宮口ニ向フ部ヲ先進部ト稱シ多クハ頭部先進スルモノニシテ之ヲ頭位ト稱シ其反對ナルモノヲ骨盤位ト稱ス。胎兒ノ方向ヲ猶ホ精細ニ説明スル爲メ其ノ背部ノ方向ヲ示ス

モノヲ胎向ト稱シ胎兒ノ背部母体ノ左方ニ向フモノヲ第一胎向ト稱シ右方ニ向フモノヲ第二胎向ト稱シ其ノ稍々前方ニ向フモノヲ第一分類トシ後方ニ向フモノヲ第二分類ト稱ス。故ニ兒背母体ノ左前方ニ向フモノヲ第一胎向ノ第一分類ト稱シ右前方ニ向フモノヲ第二胎向ノ第一分類ト稱シ左後方ニ向フモノヲ第一胎向ノ第二分類ト稱シ右後方ニ向フモノヲ第二胎向ノ第二分類ト稱スルモ名稱ヲ縮少シテ單ニ甲者ヲ第一頭蓋位乙者ヲ第二頭蓋位丙者ヲ第三頭蓋位丁者ヲ第四頭蓋位ト稱スルヲアリ。此名稱ハ骨盤位ニテモ同一ニシテ前者ヲ頭蓋位ノ云々ト稱スルニ反シ之ヲ骨盤位ノ云々ト稱ス例之ハ骨盤位ノ第一胎向第一分類ヲ又名第一骨盤位ト稱スルカ如シ。橫位ニ於テモ同シク胎向ヲ稱スルモノニテ兒背前方ニ向フモノヲ第一胎向後方ニ向フモノヲ第二胎向ト稱シ胎向モ亦胎勢胎位ト同シク時ニ或ハ之ヲ變スルコトナキニアラズ。胎位中最モ多キハ頭蓋位ニシテ一百回中九十五回ヲ算シ就中第一胎向ハ多クシテ歐洲人ニテハ第二胎向ハ第一胎向二回中一回ナリト云フモ日本人ニテハ比々多ク骨盤位ハ三百

第八問 妊婦ハ如何ナル變化ヲ其身体ニ發スルカ

答 婦人ハ妊娠スレバ直ニ其變化ヲ全身ニ發スルモノナルガ就中子宮ハ著明ナル變化ヲ起ス。子宮ハ通常其直徑六七仙迷ニ過キササルモ妊娠スレバ漸次増大シ末期ニ至レバ三十五仙迷以上トナリ容積ハ五百倍ニ達スルモノニテ此際子宮壁ハ肥厚シ特ニ底部ニ於テハ甚シクシテ紫赤色ヲ呈シ温度ヲ増シ血管ハ蜿蜒トシテ蛇行狀ヲナシ互ニ吻合シテ網狀ヲナス動脈ハ多ク毛細管ヲ經スシテ直ニ靜脈ニ移行スルモノニテ血管破損スルコトアレバ大出血ヲ起ス分娩時胎盤剝離ニ當リ出血ヲナスモ亦タ是レガ爲メナリ。子宮ノ位置ハ始メ一二ヶ月ニ於テハ深ク骨盤内ニ下降スレドモ漸次上昇シ四ヶ月ニ至レバ大骨盤内ニ出デ九ヶ月ニ於テハ最高部ヲ占メ底部ハ心窩部ニ達シ十ヶ月ニ至レバ却テ稍々下降シ底部ハ稍々前方ニ突出シ腔部ハ後方ニ傾キ薦骨岬ニ接近ス。妊娠トナレバ子宮ハ

稍々柔軟トナリ特ニ腔部ニ於テハ甚シク且ツ短縮スルヲ以テ殆ンド觸知シ得ザルニ至ルコトアリテ頸管内ヨリハ粘稠ノ液ヲ分泌ス。然レモ最モ大ナル變化ヲ起スモノハ粘膜ニシテ受胎卵粘膜ニ附着スレバ直ニ肥厚シ卵子ヲ被包シ三ヶ月迄ハ專ラ此圍擁シタル周圍粘膜ニテ卵ヲ養ヒ三ヶ月以後ニ至リ胎盤ヲ形成スルニ至レバ卵ノ附着シタル部位即チ胎盤ノ發成部ノ粘膜増殖肥厚シ其他ノ部分ハ漸次菲薄トナリ所謂卵膜ヲ形成シ分娩ニ當リ後産トシテ排除セラル。此ノ外喇叭管子宮靱帶等モ肥厚延長セラレ卵巢腔外陰部モ亦タ充血スルモノニテ腔外陰部ハ柔軟鬆粗トナリ多クノ粘液ヲ分泌シ特ニ腔ハ藍赤色ヲ呈シ外陰部ニハ暗黒色ノ色素ヲ沈着シ柔軟恰モ海綿狀ヲナシ時トシテハ靜脈ノ怒張ヲ認ム。乳房ノ變化モ著明ニシテ妊娠スレバ直ニ増大ヲ始メ初メ瘤狀ヲナシタル乳線ハ漸次柔軟トナリ乳暈及ビ乳頭ハ暗褐色ヲ呈シ「モントゴメリ」氏腺ハ顯著トナリ皮膚ハ龜裂ヲ生シ赤色線ヲ露呈シ皮下靜脈ハ怒張シテ青色ヲ呈シ乳頭ヲ壓スレバ初乳ト稱スル透明粘稠ナル液ヲ漏ス。月經ハ受胎スレバ直ニ閉止スルヲ

常トスレドモ初メ一二ヶ月ハ之ヲ發スルコトアリ稀ニハ四五ヶ月ニ至ルモ猶ホ少量ノ出血ヲ起スコトナキニアラズ但シ末期ニ至リ稍多量ノ出血ヲナスモノハ前置胎盤ノ疑ヒアルモノニテ大ニ注意セザルベカラズ。妊娠中ハ生殖器以外ニモ諸般ノ變化ヲ起ス就中屢々目撃スルモノハ食思ノ異常ニシテ平素嗜好スルモノヲ嫌ヒ却テ嗜マザルモノヲ歡フコトアリ甚シキハ白米白墨木炭ノ如キ食用品外ノモノヲ口ニセントスルニ至リ且ツ屢々嘔氣ヲ催シ嘔吐ヲナスコトアリ特ニ早朝空腹時ニ水様液ヲ吐出スルハ妊娠時ニ限ルモノニテ惡咀ト稱スルモノ即チ是ナリ。此症狀ハ二三ヶ月持續シ子宮大骨盤内ニ出ツレバ減退スルヲ常トスレドモ四五ヶ月ニ至ルモ猶ホ止マズ或ハ却テ末期ニ至リ吐逆ヲナシ毫モ食事ヲ取ルコト能ハズシテ餓死ニ陥ルコトアリ惡性嘔吐ト稱シ妊娠時ノ疾病中最モ恐ルベク且ツ比較的的多キモノニテ醫師ノ診斷ヲ受ケシムベシ。精神狀態ニモ異常ヲ起シ平素活潑ナル人沈鬱トナリ沈着ナリシ人快活トナリ又喜怒哀樂ノ發情銳敏トナリ僅微ノ刺戟ニ對シ或時ハ笑ヒ或時ハ泣キ或時ハ怒ル等ノ變狀ヲ現

ハシ又頭痛齒痛其他身体諸部ノ疼痛等ヲ訴フルコトアリ。血液循環ニモ變狀ヲ來シ其異常分配ニヨリ眩暈心悸亢進等ヲ起シ往々痔血溢血等ヲ發スルコトアリ。皮膚モ必ず多少變化ヲ起スモノニシテ白狀乳暈外陰部ハ色素ヲ沈着シ暗黒色ヲ呈シ顔面胸部等ニハ雀斑様ノ小斑ヲ生ジ腹壁乳房大腿等ニハ皮下組織ノ龜裂ニヨリ妊娠癍痕ト稱スル赤色線ヲ發シ下腹部外陰部下肢等ニハ怒張シテ青色ヲ呈スル靜脈ヲ露ハシ顔面下肢等ニハ往々多少ノ浮腫ヲ起シ蒼白トナリ若クハ少シク黃色ヲ呈スルニ至ル。此他臍部ハ突出シ呼吸ハ胸式トナリ平素見ルベカラザル肩胛ノ一上一下ヲナスニ至リ腹部ハ膨滿ノ爲メ歩行困難トナリ坐スルニモ亦タ一種ノ姿勢ヲ呈スルニ至ル。

第九問 妊娠ハ如何ナル徵候ニテ確定セラル、カ

答 婦人妊娠スレバ生殖器及全身ニ變化ヲ發スレドモ其變化ハ妊娠ノ際ニ限ラズシテ他ノ疾病ニ於テモ之ヲ發スルコトアリ又極メテ稀ニハ平素妊娠ヲ熱望

スル婦人又ハ「ヒステリー」性婦人杯ニ於テ目撃スル所謂想像妊娠ナルモノニ於テハ月經ハ閉止シ腹部ハ膨滿シ往々胎動ヲモ自覺シ且ツ食物好惡ノ變化皮膚ノ着色ノ如キ惣テ妊娠時ニ現ハル、症狀ヲ發スルコトアリ。此等ニ於テハ胎兒ハ果シテ體內ニ存スルヤ否ヤヲ他覺的ニ證明スルノ外妊娠ヲ確定スル道ナシ。身體内ニ胎兒ヲ存スルヤ否ヤヲ確定スルニハ胎兒ヨリ發スル徵候ヲ發見スルノ外ナキモノニシテ之ヲ妊娠ノ確徵ト稱シ自覺的症狀ノ如何ニ拘ハラズ此症候發スレバ妊娠タルコトヲ斷言シ得レドモ前半期ニ於テハ明ラカナラザルヲ以テ妊娠ヲ確定スルハ第六ヶ月以後ナラザルベカラズ。胎兒ヨリ發スル徵候トハ胎兒身體ノ小部分ヲ明カニ觸知スルコトト胎兒ノ運動ヲ觸知スルカ聽取スルカ又ハ腹壁ヲ隔テ、見得ルコトト胎兒ノ心音及臍帶雜音ヲ聽キ得ルコトニシテ胎兒ノ運動ハ妊婦自カラ之ヲ自覺スルモノナレドモ妊娠ヲ熱望スルモノニテハ腸ノ運動又腹内腫瘍ノ動搖等ヲ胎兒ノ運動ト誤認スルコトアルヲ以テ產婆自カラ發見シタルモノニアラザレバ確徵ト認メ難シ。五ヶ月以前ニ顯ハル、處ノ徵候

ニテモ月經閉止シ子宮増大シテ柔軟トナリ膺外陰部等腫起シ着色ヲナシ且ツ温暖トナリ加フルニ乳房ハ肥大シ着色ヲナシ腹部亦タ膨滿シテ血管ノ雜音ヲ聽取スルコトアレバ譬エ此等ノ徵候ハ妊娠時所謂半確徵ト稱スルモノニテ妊娠時以外ニモ發スルモノナレドモ其諸症並ビ發スルトキハ妊娠ト認メテ大過ナシ。然レドモ此徵候ハ妊娠時以外他ノ疾病ニテモ發スルモノナレバ其一二ノ徵候ヲ發スルヲ見テ直ニ妊娠ト速斷スレバ大ナル誤謬ヲ招クコトアリ。此外惡心嘔吐ノ如キ消化器ニ發スル變狀齒痛筋痛若クハ精神異常ノ如キ神經系ニ發スル異常尿意頻數尿閉便秘等骨盤内壓迫ノ爲メニ起ル生殖器周圍臟器ノ變態皮膚ノ着色龜裂ノ如キハ半確徵ヨリモ更ニ不確實ニシテ之ヲ妊娠ノ不確徵ト稱シ妊娠時以外屢々發スルモノナレドモ此不確徵候ニテモ並ビ發スル時ハ妊娠ト斷言シテ可ナルモノニシテ且ツ初期ニ於テハ此等ノ徵候ヲ以テスルノ外妊娠タルコトヲ知り得ル道ナシ。故ニ妊娠ノ徵候ハ不確徵半確徵確徵ノ三段ニ區別シ得ルモノニシテ惣テノ徵候具備スレバ最モ確實ナレドモ然ラザル時ハ半確徵ハ不確徵

ヨリモ多ク妊娠タルコトヲ證明シ得ルモノナレドモ確徵ヲ發見スルニアラザレバ一点ノ疑ヒナキモノトハ斷言シ難キモノトス。

第十問 産婆ハ妊娠中胎兒ノ性數生死及分娩ノ難易ヲ豫定シ得ルヤ

答 分娩ハ骨質ヨリ成ル骨盤管内ヲ恰モ該管ト同大ナル兒頭通過シ初メテ之ヲ終ルモノナルガ故ニ其難易ヲ知ラント欲セバ骨盤ノ太サニ於テ異常ナキヤヲ檢定シ亞テ胎兒ノ發育程度及ヒ其位置如何ヲ知ルコト肝要ナリ。骨盤ノ異常ハ日本ニ於テハ比較的稀ナリト聞ケドモ近時日本ニ於テモ「ラヒチス」骨軟化症ノ如キ骨質變化ヲ起ス疾病アルコトヲ發見セラレタル由又其外ニ於テモ骨盤ノ變化ナキニアラザレバ妊婦ヲ診察スルトキニハ先其人ノ躰格ヲ見若シ手腕關節ニ膨隆アルカ脊椎ニ彎曲アルカ胸廓歪狀ヲナスカ下肢X脚C脚等ヲナスカ或ハ然ラザルモ歩行整然タラズ蹣跚狀ヲナスカ又動作上疼痛ノ狀アルトキハ骨盤ニ異常アルモノト察スベク然ラザルモノニ於テモ骨盤ヲ測定スルハ診斷上肝要ノ

コトトス。骨盤測定ニ於テハ其周圍七十八仙迷外直徑十八仙迷腸骨櫛間二十六仙迷前上棘間二十三仙迷大轉子間二十八仙迷ヲ算シ内診ノ際腔入口部ニ於テ左右耻骨下行枝甚ダシク接近セズシテ示指ヲ深く挿入スルモ薦骨胛ニ達セザルトキハ骨盤ニ異常ナキモノト認メテ可ナリ。骨部ニ異常ナキトキハ軟部ノ狀況ニ注意スベキモノニシテ問診上出血アルモノハ子宮癌腫前置胎盤ニ疑ヲ置クベク内診ヲ行ヒ腔部不正ニシテ稍々硬ク之ニ觸ルレバ直ニ出血スルモノハ癌腫ノ疑ヒアリ柔軟ニシテ内診ノ際出血ナキモ時々出血スルモノハ前置胎盤ノ疑ヒアリ若シ又腹部甚ダ柔軟ニシテ胎兒ノ部位ヲ觸ル、コトナク且ツ腹部急劇ニ膨張セリト云フモノハ葡萄狀胎ノ疑ヒヲ起スベキモノニシテ何レモ醫師ニ其診斷ヲ請ハシムベシ。其外外陰部硬固ニシテ彈力少ナキモノハ既往疾病ノ爲メ癍痕ヲ生ゼシカ或ハ癌其他疾病アルモノニシテ分娩稍々困難ナルモノト見ルベク著シキ異常ナキモ躰格小ニシテ腹部比較的大ナルカ或ハ外陰部ノ發育不充分ニシテ腔入口部狹隘ナル人ハ然ラザルモノニ比スレバ分娩稍々遲延スルノ恐アリ

然レドモ爲メニ分娩シ得ザルモノナシ。胎兒ニ於テハ腦水腫腹水等ノ爲メ分娩ヲ困難ナラシムルコトナキニアラザレドモ此ハ極メテ稀ナル例ニシテ最モ注意ヲ要スベキハ其位置ナリ縦位ニシテ頭部骨盤ニ向フモノニ於テハ胎向ハ第一ナルモ第二ナルモ分娩上大差ナキモ骨盤位ハ爲メニ母體ニハ危險ヲ來タスコトナキモ胎兒ノ豫後ニ關シテハ甚ダ危險ナリ若シ其位置横ニアルカ斜ニアルモノニ於テハ分娩最モ困難ニシテ整復スルニアラザレバ多ク死亡ス。胎兒ハ一個ナルヤ否ヤノ診斷ハ困難ニシテ腹部ノ膨滿甚ダシキモノニ於テハ數胎ノ疑ヲ起スベキモ羊水過多ニ於テモ膨滿スルヲ以テ兩兒ノ部位ヲ明カニ觸知スルカニケ所ニ於テ心音ヲ聽取シ得ルニアラザレバ確定スルコト能ハズ分娩ニ際シ子宮口部ニ於テ二個ノ卵膜ヲ觸ル、カ四個ノ小部分ヲ觸ル、カ搏動ナキ臍帶脫出スルニ拘ラズ腹部ニ於テ心音ヲ聽取スル等二兒ニ於テ見ル現象ヲ實現スルニアラザレバ明瞭ナラズ。胎兒生存スルヤ否ヤモ死後時ヲ經ザレバ明カナラザルコトアリ死亡スレバ胎動止ミ心音ヲ聽取スルコト能ハズシテ子宮ハ柔軟トナリ腔内

ヨリ多量ノ分泌物ヲ漏シ妊婦ハ消化不良倦怠等ヲ訴ヘ下腹部ノ寒冷及ヒ腹内異物ノ存在ヲ自覺スルコトアレドモ確實ナラズ稍々時ヲ經レバ腹部漸次縮少シ乳房モ亦弛緩スルモノニテ且ツ死亡スレバ多クハ自ラ娩出セラル。男女兩性ノ診斷ハ妊娠中不可能ナリト云フヲ至當トス妊婦ノ容姿異ナリトカ胎兒ノ心音女兒ノ方稍多シトカ云フ人アレドモ確實ナラズ。

第十一問 殺菌法ハ何故妊婦ノ診察及ヒ分娩ノ介輔上必要ナルヤ及其方法如何

答 現今ノ學理上多クノ疾病ハ細菌ト稱スル顯微鏡ノ力ニ依ラザレバ發見シ難キム微物ノ体内繁殖ニ依テ發スルモノニシテ細菌ハ空氣塵埃中ニ又器械及ヒ吾人ノ身體表面等ニ附着存在ス。通常吾人ノ体内ニ浸入セザルモノハ身體表面ニ存在スル皮膚其浸入ヲ防禦スルニ由ルモノニシテ若シ表皮ノ一部ニ欠損アルトキハ細菌ハ直チニ該部ヨリ浸入スルモノニテ其欠損ハ吾人ノ眼力ニテ發見

スルコト能ハザル細小ノモノニテモ可ナルガ体内ニ浸入スレバ直チニ増殖シ瞬間ニ數十萬トナリ疾病ヲ誘起ス。疾病ノ傳染ト云フハ即チ此細菌ガ甲ノ人ヨリ乙ノ人ニ移行シタルモノニシテ妊婦産婦ニ於テハ特ニ此細菌ニ侵サレ易シ。其理由ハ妊婦産婦ニアリテハ生殖器及其附近ハ充血高度ニ達シ組織柔軟トナリ血液ニ富ミ分泌増加スルヲ以テ細菌一度浸入スレバ恰モ其培養ニ適スルノミナラズ分娩ニ際シテハ必ラズ多少ノ創傷ヲ發スルヲ以テ少シク注意ヲ怠レバ直チニ傳染ヲナス殊ニ産褥熱ト稱スルモノハ好シテ産婦褥婦ヲ侵ス怖ロシキ熱性病ニシテ該病ニ侵サレタルトキハ十中八九ハ死ヲ免カレザルモノナルガ其原因ハ産褥熱固有ノ細菌ニシテ其傳染ノ経路ガ産褥熱ニ罹リ居ル産婦褥婦ヲ介輔シ充分ノ消毒ヲ行ハズシテ其儘妊婦産婦ヲ診察シ或ハ其診察ニ要シタル器械ヲ使用シタルニ起因スト云フニ至リテハ寒心セザルベカラザル次第ニテ吾人産婆ハ分娩ノ安全ヲ保障スル任務ヲ有シナガラ却テ該病ヲ傳染セシメタル罪人トナル。故ニ産褥ノ疑ヒアル産婦褥婦ニ接シタル時ハ充分ナル消毒法ヲ行フ迄他ノ妊婦

産婦ノ診察ヲ謝絶スルコトハ徳義上必要ナルノミナラズ獨逸杯ニテハ法律上之ヲ許サルコト、ナリ居ルト聞ク。身體器械等ニ附着シタル細菌ヲ撲滅スル法ヲ殺菌法ト稱シ器械類ハ惣テ水又ハ一%曹達水ニテ煮沸スレバ可ナルモ煮沸後空氣ニ暴露スレバ再ビ細菌附着スルヲ以テ煮沸後ニハ空氣ニ暴ラサズ又布片其他ノ物品ニ觸レザル様注意シテ使用スベク身軀ノ殺菌ハ清潔法ト藥液ノ使用ニ賴ラザルベカラズ。爪ノ如キ特ニ其間ニ細菌潜伏シ易キヲ以テ能ク之ヲ切取り爪鑷子ヲ以テ磨キ指先ニハ裂創其他ノ創傷ナキヤヲ檢シ肘關節以下ヲ露出シ石鹼及刷子ヲ以テ丁寧ニ洗ヒ而後千倍昇汞水一%「リゾール」水或ハ三%石炭酸水ヲ以テ二三分間洗滌スルヲ要ス。此三藥液ハ通常用ユルモノニシテ孰レヲ用ユルモ可ナレドモ其間各多少ノ利害アリ石炭酸水ハ元來結晶体ナルヲ以テ之ヲ溶解セザルベカラズシテ若シ溶解充分ナラザルトキハ局部ヲ腐蝕スルノ恐れアリ「リゾール」水ハ水ニ溶解シ易ク滑澤ナルヲ以テ油ヲ用ユルノ繁ヲ省キ又皮膚粘膜ヲ刺戟スルコト少ナキモ一種ノ臭氣アリ昇汞水ハ殺菌力强キモ毒性劇

シキ故ニ一層ノ注意ヲ要スベク特ニ不便ナルハ金屬ヲ浸蝕スル性質アルヲ以テ金屬ニハ一切用ヒ難キ不便アリ。故ニ吾人産婆ハ平素身體特ニ手腕ヲ清潔ニシ診察及分娩介輔前ニハ充分手腕ヲ洗ヒ消毒藥ニ漬シ器械ノ類ハ惣テ煮沸シタルモノヲ使用シ脱脂綿ガーゼノ如キモ亦能ク煮沸セザレバ使用セザルモノト心得ベキモノトス。

第十二問 妊婦ニ示スベキ攝生法ハ如何ン

答 妊娠ハ生理的作用ニシテ疾病ニアラザレバ特種ノ攝生法ヲ要スルニアラザレドモ妊娠中ニハ身體ニ偉大ノ變化ヲ來スヲ以テ平常ニアリテハ毫モ障害ナキ事柄モ妊娠中ニハ身體ニ刺戟ヲ與ヘ或ハ流産ヲ促シ或ハ疾病ヲ誘起スルコトアルヲ忘ルベカラズ。飲食物ハ其嗜好ニ從ヒ用ユベキモ一時ニ多量ノ飲食ヲナスコトナク又不消化物ハ之ヲ避ケシムベク特ニ就寢前ニハ其量ヲ過サスマジク大根豆類芋類ノ如キ風氣ヲ醸スモノ芥子胡椒蕃椒ノ如キ香料物梅未熟ナル柑

類ノ如キ酸味強キ食物濃厚ナル茶珈琲酒類等ハ用ヒシメズ又炭白墨ノ如キ平素食物トシテ用ヒザルモノヲ嗜ムコトアルトキハ素ヨリ之ヲ禁ズベキト同時ニ牛乳肉汁ノ如キ佳良ノモノニテモ妊婦ガ好マザルモノハ強ユルニ及バズ嘔氣アルモノニ對シテハ起床前ニ進メ或ハ少量宛數回ニ與フレバ能ク効ヲ奏スルコトアリ。業務ハ其習慣ニ從ヒ之ヲ行ハシムベキモノニテ一概ニ論シ難シ労働者ノ如キ平素之ニ慣レタル人ニテハ其業務ヲ廢セザルモ分娩及産褥ノ經過ハ常ニ善良ナレドモ閑生活ニ慣レタル人ニテハ稍々過度ノ步行抽斗ノ開閉階段ノ昇降高所ニアルモノ、揚ゲ下シ乃至長時間ノ座業裁縫ノ如キモノニテモ疲勞ヲ起シ危害ヲ招クコトアリ。故ニ深窓ノ内ニ生長シタ人ニアリテハ一切ノ労働ヲ廢シ時間ヲ定メ清涼ナル空氣中ヲ少時間散歩セシメ多數會合ノ席ヲ避ケ旅行特ニ人力車汽車ノ用ヲ廢セシムベキモ下等ナル生活ヲナス人ニ對シ同一ノ攝生ヲ強ユルハ不可能ナルノミナラズ却テ害アリ。身體ノ過勞ガ有害ナルト同ジク精神ノ過勞モ亦タ有害ナレバ精神ヲ安靜ニシテ睡眠ヲ充分ニシ恐怖驚駭悲哀憤怒嫌

悪劇度ノ喜悅等ヲモ避ケシムルコト肝要ニシテ從テ稗史小説ノ如キ浪花節演劇ノ如キモ感情ヲ動カスコト大ナルモノハ見聞スルコトヲ避ケシメ特ニ慎ムベキハ談話中畸形兒又不幸ナル分娩等ノ話ニシテ妊婦ハ此等ノ談話ニハ強ク感動スルモノナレバ勤メテ諭安シ俗間行ハルル妄說ニ對シテハ可及的之ヲ避ケシムルコトニ注意スベシ。衣服ハ時候ニ應シ温保ノ目的ニ違ハザルヲ度トスベキモ猥リニ衣ヲ襲ネ或ハ重キ帶ヲナシテ身體ノ運動ヲ不便ナラシメ又胸腹部ヲ緊縛スルモノハ不可ナリ。從來用ユル處ノ結肌帶ノ如キ敢テ必要ヲ認メザレドモ腹壁弛緩スル人特ニ數回分娩シタル人ニアリテハ胎兒ノ位置ヲ正シクシ腹部ヲ温暖ニ保持スル目的ヲ以テ幅廣キ「フランネル」杯ヲ以テ緩ク之ヲ纏フノハ往々有効ニシテ近時用ヒラル、婦人用股引莫大小製腰卷ハ頗ル可ナリ。入浴ハ高熱ノ浴中ニ長ク身體ヲ没スルハ不可ナレドモ清潔法ハ必要ニシテ時々全身浴ヲナシ浴後ニハ能ク身體ヲ温暖ニ保持スベキモノナレドモ温泉場海水浴等ハ特別ノ場合ノ外之ヲ避ケシムベク冷水浴座浴等モ亦タ不可デアル。身體ノ清潔法

ハ特ニ必要ニシテ外陰部ハ必要ニ應ジ毎日數回洗滌シ時ニ或ハ「イリガートル」ヲ以テ腔内ヲ洗滌スルノ要アルベキモ此使用ニハ特ニ注意セザレハバ却テ刺戟ヲ與ヘ流産ヲ誘起スルコトアリ。特ニ注意スベキハ便通ニシテ妊婦ハ便秘ノ傾キアルヲ以テ室外ノ運動空腹時ノ冷水飲用菓物ノ常用等ニテ之ヲ誘ヒ効ナキ時ハ溫石鹼ノ灌腸ヲ行フベキモ猶ホ便通ナキ時ハ醫師ヲ煩ハスベク決シテ自ラ藥物ヲ與フベカラズ。尿ハ尿意アル毎ニ排尿セシメ少シニテモ蓄溜セシムベカラズ。交接ハ素ヨリ不可ナレドモ絶對的停止スルニ及バス能ク注意ヲナシ輕ク之ヲ行ハシメ二三ヶ月ニシテ子宮下降ノ際及臨月ニ於テ特ニ慎マシムルヲ可トス。

其外乳房ノ皮膚薄弱ナル人ニアリテハ酒精ヲ以テ之ヲ洗ヒ又乳頭ヲ引出シ分娩後授乳ニ便ナラシムルト同時ニ其皮膚ヲ強硬ナラシムルヲ要ス。

答 分娩トハ胎兒及其附屬物即チ胎盤卵膜臍帶及ビ羊水ヲ自然ノ力ニヨリ體外ニ排除スル作用ヲ云フモノニシテ人工ノ助ヲ要セズシテ自然ニ且ツ平易ニ産出スルモノヲ正規分娩ト稱シ母胎及兒胎ニ危険アルカ或ハ放置スレバ到底産出スルコト能ハザルモノヲ異常分娩ト稱ス。 正規分娩ハ受胎後四十週ヲ經ルノ後自然ノ力ニ依リ自カラ營マル、モノナレドモ母兒ニ異常アルトキハ四十週ヲ待タズシテ産出スルコトアリ流産及ビ早産ハ即チ然ルモノニシテ四十週間ノ後産出スルモノヲ前者ニ對シ遲産ト稱ス。 正規ノ分娩ヲ營ムニハ産道ニ異常ナク胎兒ノ發育位置正當ニシテ産出力モ亦タ正規ナルヲ要スルモノニシテ持續時間ハ日本人ニテハ常ニ歐米人ヨリモ短ク初産婦ニテハ十二時乃至二十時間ニテ足レリトスレドモ三十歳以上ニテ初メテ分娩スル人ニテハ稍々長キ時間ヲ要シ一回分娩ヲ經過セシ人ニテハ常ニ早シ。 然レドモ此時間ハ産道ノ廣狹胎兒ノ大小産出力ノ強弱ニ關スルモノニシテ早キモノニテハ一二時遅キモノニテハ二

十四時間以上ヲ要スルコトアレドモ特ニ異常ヲ起サルモノハ正規ナリト云フコトヲ得ベク分娩ノ時刻ニ關シテハ夜間ハ晝間ヨリモ多ク午前ハ午後ヨリ多シ。 産道トハ子宮頸管子宮口腔及外陰部ヲ云ヒ胎兒之ヲ通過スルトキハ能ク擴張セラレ特ニ會陰ノ如キ甚ダ延長シ得ル性質ヲ有スルヲ以テ之ヲ軟部産道ト稱シ癍痕アルカ腫瘍等ヲ存スルモノ、外ハ分娩ヲ妨グルコトナシト雖モ其外部ニアル骨部ハ骨部産道ト稱シ殆ト一定シテ動クコトナキヲ以テ些少ノ狹窄アルモ分娩ヲ妨グ。 産出力トハ重ニ子宮ノ收縮ヲ云フモノニシテ必ズ多少ノ疼痛ヲ伴フヲ以テ之ヲ陣痛ト稱シ分娩中最モ必要ノモノナルガ妊娠末期ニ達シ胎兒十分ノ發達ヲナセバ子宮筋ハ自ラ其收縮ヲ始ムルモノニシテ當初産婦ハ腰部及ビ薦骨部ニ微痛ヲ訴ヘ漸次強クナリ且ツ下腹部ニ及ブモノニシテ此收縮ハ全ク不隨意ニ起レドモ精神ノ感動又子宮ノ摩擦ニヨリ多少之ヲ早メ又ハ強カラシムコトアリ。 此際腹部ニ手ヲ貼スレバ硬固トナリタル子宮ヲ觸知シ得ルモノニシテ極度ニ達スレバ恰モ石ノ如クナルモ其發作ハ長ク持續スルコトナク數分間

ノ後漸次緩解シ數分間休止シ再ビ發作スルモノニシテ分娩ノ初期ニテハ休憩時長ク發作時短カク且ツ弱キモ分娩期進ムニ從ヒ漸次休憩時短カク發作時長ク且ツ強クナルモノニテ陣痛ノ一張一弛ハ産婦及胎兒ニ取りテ最モ必要ナリ。胎兒ガ漸次産道ヲ擴張シテ下降スルハ實ニ之レアルガ爲メニシテ若シ數時間持續シテ收縮止マザルトキハ母胎ハ苦痛シ胎兒ハ爲メニ窒息スルニ至ルノミナラズ産道ハ能ク擴張セラル、コト能ハザルベシ。發作ノ際ニハ始メ少シク收縮シ漸次強度トナルモノニシテ此期間ヲ進行期ト稱シ收縮高度ニ達シ暫時同一状態ニアル期間ヲ極期ト稱シ弛緩ヲ始メ漸次緩解スル期間ヲ退行期ト稱シ其間ハ三四十秒乃至百秒ニ過ギズシテ間歇時間ハ當初ハ十五六分後ニハ一二分トナル。此外分娩ヲ助クルモノハ腹壓ニシテ腹壓ハ分娩ノ時期進行スレバ自ラ緊張シ子宮收縮ヲ助クルモノナルモ腹筋ハ元來隨意筋ナルヲ以テ産婦ハ自ラ之ヲ調節シ得ルヲ以テ産婆タルモノハ不及的初期及ビ休憩時ニ休ミ發作時ニ働カシムル様教示セネバナラヌモノニテ腹壓ヲ加フルトキハ兩足ヲ支ヘ手ニ物ヲ握ラシメ呼

吸ヲ留メ怒責セシムベキナリ。腔ノ收縮モ分娩ノ一助トナルモノニテ胎兒胎盤等腔内ニ出ヅルノ後其收縮ハ之ヲ壓出スルノ要アルガ如クナレドモ既ニ腔内ニ出ヅレバ之レナクモ産出シ得ルモノニシテ且ツ産婆ハ之ヲ引出スニ努ムベキデアル。疼痛ハ子宮收縮ノ爲メ起ルノ外産婦ガ最モ劇シク感ズルハ外陰部ヲ壓排スル際ニシテ此時ニハ其痛ニ堪ヘズシテ聲ヲ發スル者ナキニアラズ。

第十四問 分娩ノ經過ヲ説明セヨ

答 分娩ハ一定ノ前徵即チ腰痛下腹部ノ壓重等ヲ發スルコト、然ラザルコトアルモノニシテ疼痛ハ當初極メテ微弱ニシテ且ツ一時ニテ停止スレドモ數時間又ハ一日ノ後再發スル時ハ稍々強度トナリ又頻發スルニ至ルモノニシテ此ヲ稱シテ分娩期ニ入ルト云フ。此際兒頭ハ下降シ骨盤内ニ固定セラル、モノニシテ内検査ヲ行ヘバ子宮口ハ初産婦ニアリテハ猶ホ未ダ開大セザルモ頸管ハ消失シテ菲薄紙ノ如クナリ經産婦ニテハ開大シ指頭ヲ挿入シ得ベク腔壁ハ弛緩シテ

柔軟トナリ粘稠ノ液ヲ分泌シ身體ノ運動自由ナラズ荐リニ大小便ヲ催ス。分娩ハ通常十二時乃至二十四時間ニテ終ルモノニシテ當初ハ下腹部及腰部ノ緊張ヲ訴フルニ過ギズ且ツ之サヘモ暫時ニシテ止ミ十五分乃至二十分ニシテ再發スルモ漸次疼痛ト變ズルモノニシテ此際頸管ハ擴張開大セラル。陣痛ノ時ニハ何故胎兒ハ下方ニ壓サル、カト云ヘバ子宮壁ノ厚サガ同一ナラズ子宮底部即上部ハ厚ク下部ハ薄キニ依ルモノニシテ子宮收縮ヲ起セバ其内容即胎兒ハ下方ニ壓セラレ子宮内ハ抵抗弱キ爲メ酒盃狀ニ開張セラレ羊水モ亦漸次ニ壓排セラレ兒頭下ニ聚リ所謂胎胞ヲ形成スルモノニシテ初ハ陣痛時ニノミ膨隆シ間歇時ニハ消失スレドモ後ニハ終始之ヲ保存スルモノニシテ頸管ハ此胎胞ノ壓迫ト子宮緣ノ上部牽引トニヨリテ漸次開大セラル。此期間ヲ分娩ノ開口期ト稱シ八時間乃至十時間ヲ要スルガ後ニハ胎胞破裂シ羊水ノ一部ヲ漏ラスニ至ルモノニテ破裂後ハ陣痛一層劇烈トナリ間歇時短クナル。此期間ヲ產出期ト稱シ胎兒ガ腔内ニ下降スル時ニシテ產婦ハ顔面潮紅ヲ呈シ心身不安トナリ全身發汗シ知ラ

ズ識ラズ怒責ヲ起ス。此期間ハ通常一時間乃至二時間ヲ要スルモノニシテ排臨ト稱シ陣痛發作ニ當リ兒頭ヲ外部ヨリ臨ミ見ルニ至レバ往々不隨意ニ大便ヲ漏スコトアリ。陣痛ノ發作ハ益々頻回トナリ且ツ長ク持續シ間歇時ナキニ至レバ發露ト稱シ二三回ノ強キ陣痛ニ依リ腔内ニ現レタル兒頭ハ退去スルコトナクシテ腔外ニ產出セラル、モノニテ產婦ガ最モ劇シキ疼痛ヲ訴ルハ此期間ニシテ全身震戦シ往々大聲ヲ發ス。胎兒娩出スレバ羊水ハ全ク排除セラル、モ胎盤ハ猶ホ卵膜ト共ニ子宮内ニ止リ臍帶ニ依リテ胎兒ト連續スルモノニシテ稍々少シク牀ヲ震戦セシムルコトアルモ陣痛ハ休止シ產婦ハ爽快ヲ感ズ。後二三分乃至十五分間ヲ經レバ後陣痛ト稱シ再ビ陣痛ヲ發スルモノニシテ此陣痛ニヨリ胎盤ハ子宮壁ヨリ剝離セラレ從テ起ル處ノ稍々強キ陣痛ト共ニ外部ニ壓出セラル。分娩ハ之ニテ終結シタルモノニシテ胎兒分娩後ハ出血多量ナルモ直ニ止血シ胎盤下降ノ際ハ再ビ出血スルモ是亦直ニ止血シ子宮ハ硬固トナリ耻骨縫合上四指横徑ノ部ニ其底面ヲ觸知スルニ至ル。

第十五問 分娩時ニ於ケル胎兒ノ位置及其分娩ノ難易ハ如何

答 子宮内ニ於ケル胎兒ノ位置ハ分娩時ニ於テモ妊娠中ト大差ナシ稀ニ陣痛發作ノ後少シク變ジテ橫位斜位ナルモノ縱位ニ變ジ又甚ダシキハ臀位ナルモノ頭位ニ變ズルコトナキニアラザレドモ多クハ妊娠中ノ位置ニ於テ分娩ス。子宮腔ノ形ハ卵圓形ニシテ縱ニ長キヲ以テ胎兒ガ可及的縮少シタル胎勢ノ卵圓形ナルモノト一致シ頭部ヲ下ニシタル縱位ヲ取ルモノ最モ多シ就中頭位ハ全數百中九十五ヲ占メ正規ノ分娩經過ヲ取ルモノニテ母兒共ニ安全ナリ。頭蓋位中最モ多キハ後頭位ニシテ就中兒背ヲ母躰ノ左前方ニ向クルモノ即チ第一胎向ノ第一分類又名第一頭蓋位ハ後頭位中ニテモ最モ多キモノニシテ兒背ヲ母躰ノ右前方ニ向クルモノ即チ第二胎向ノ第一分類又名第二頭蓋位之二次クト云フモ日本人ニテハ第二頭蓋位比較的多シト云フ兎角此二者ハ分娩ノ經過ニ於テハ毫モ難易輕重アルナクコト正規ナルモノナリ。第二分類ハ又名前頭位ト稱シ顔面

ヲ少シク後方ニ向クルモノニシテ第一胎向ニテモ第二胎向ニテモ分娩困難ニシテ幸ヒ第一分類ニ變ズレバ可ナルモ然ラザルトキハ頭部產出ノ際顔面ヲ耻骨縫合下ニ當テ後頭部會陰ヲ滑リ出デザルベカラザルヲ以テ疼痛多ク長時間ヲ要シ且ツ會陰ヲ傷ケ易シ。顛頂位ハ胎兒ノ矢狀縫合骨盤ノ橫徑ニ位スルモノニテ兒頭骨盤内ニ進入シ難キガ爲メ之ヲ起スモノナルガ故ニ位置自個ノ爲メヨリハ寧ろ原因ノ爲メ分娩ヲ困難ナラシムルコト多ク顔面位ニ至リテハ分娩愈々困難ナレドモ幸ニシテ千回中五回ヲ出デズ。臀位ハ百回中五回ニシテ分娩ハ敢テ困難ナルニアラザレドモ胎兒中ノ最大部ナル頭部最後ニ產出セザルベカラズ且ツ同時ニ臍帶產出スルヲ以テ胎兒ハ壓迫ノ爲メ窒息スルコトアリ頭部ノ產出ニ時間ヲ要スルコト愈々長ケレバ從テ胎兒ノ死亡ハ多キ道理ナルヲ以テ當初出ル處ノ臀部ノ產出ニ長時間ヲ要シ產道ヲ能ク擴張スルトキハ其豫後稍々可ナルモ然ラザルトキハ頭部ニ至ツテ產出愈々困難トナル。故ヲ以テ臀位ニテ臀部大ナレバ胎兒ノ豫後ハ比較的可ナルモ膝位足位等ニテハ不良ニシテ不全膝位不

全足位ハ全足位ヨリハ不良ニシテ初産婦ニ於テハ經産婦ニ於ケルヨリモ不良ナレドモ母體ニ取リテハ敢テ憂フベキコトナシ。斜位ハ多ク縦位ニ變スルヲ以テ其豫後ハ比較的ナルモ横位ニ至リテハ殆ンド自ラ分娩シ得ルノ望ミナク偏ヘニ醫師ノ手術ヲ待ツ外ナキモノニシテ自然ニ放置スレバ母兒共ニ死ヲ免レザレドモ幸ニ此位置ハ極メテ稀ニシテ千回中五六回ニ過ギズ。

第十六問 分娩ノ際産婆ハ如何ニシテ其正規ナルコトヲ知ルカ

答 分娩ハ正規ナルヤ否ヤヲ知ランニハ骨盤及産道ハ果シテ正規ナルヤ否ヤヲ知り胎兒ノ發育及ビ其位置又正規ナルヤ否ヤ及ビ陣痛ハ正順ナルヤヲ知ルコトヲ要スルモノニシテ産床ニ臨ミ先ヅ注目スベキハ陣痛ノ狀況ニシテ産婦ハ何時始メテ腹痛又腰痛ヲ發セシヤ胎水ハ既ニ排泄セシヤ否ヤヲ聽キ陣痛ハ發作屢々起リテ胎水漏排セシ後ナレバ直ニ内診ヲ行ヒ子宮口ノ大小外縁ノ狀態等ヲ檢シ胎兒先進部ノ狀況ヲ探ルベキモ然ラザルモノニ於テハ最終月經ノ期日初メ

テ胎動ヲ自覺セシ時期身体ノ健康狀態乃至前回分娩ノ狀況等ヲ問ヒ徐ロニ腹部ノ外診ヨリ始メ漸次内診ニ及ブベシ。骨盤ハ體格矮小脊椎彎曲若クハ四肢骨ノ膨隆或ハ彎曲等ヲ存スルカ然ラザルモ前回ノ分娩困難ナリシモノニ於テハ計測ヲナシ異常ナキヤヲ確カムルノ必要ナレト然ラザルモノニ於テハ外診ノ際腸骨櫛及ビ前上棘ノ距離等ヲ見異常ヲ認メザレバ計測スルニ及バズ。骨盤ニ異常ナク陣痛モ亦タ正順ナルモノニ於テハ胎兒ノ位置正當ナレバ先ヅ意ヲ安ンジテ可ナリ。外診ニ於テ胎兒縦位ナルヤ否ヤヲ見縦位ナレバ頭蓋ハ上方ニ位スルヤ下方ニ位スルヤヲ確メ下方ニアリトセバ其背部ハ左ニ向フカ右ニ向フカ又頭蓋ハ既ニ骨盤内ニ箝入固定スルヤ否ヤヲ知り而シテ後内診ヲ行フモノニシテ若シ第一頭蓋位ナルコトヲ確定セバ分娩容易ナルコト明ラカナリ。第一頭蓋位ハ外診上子宮底ニ臀部ヲ存シ恥骨縫合上ニ兒頭ヲ觸知スルモノニテ兒背ハ母軀ノ左側ニ向ヒ心音ハ臍ノ左下方ニ於テ聽取シ内診上胎兒ノ先進部ハ圓形硬固ニシテ浮動運動ヲナシ骨盤内ニ下降スル時ハ小顛門ヲ左前方ニ大顛門ヲ右後方

ニ矢狀縫合左前方ヨリ右後方ニ向フ斜徑即チ右斜徑線ニ一致シ第二頭蓋位ナレバ外診上同様ニシテ子宮底ニ臀部ヲ存シ恥骨縫合上ニ頭部ヲ觸ル、モ兒背ハ母胎ノ右側ニ小部分ハ其對側ニ存シ心音ヲ臍ノ右下方ニテ聽取スルモノニテ内診上又第一頭蓋位ト同様兒頭深ク骨盤腔ニ下降スルニ際シ小顛門ハ右前方ニ大顛門ハ左後方ニアリ從ツテ矢狀縫合ハ前ノ反對ナル左斜徑線ニ一致ス。此二位置即チ第一及ビ第二頭蓋位ハ共ニ正規ニシテ敢テ憂ルニ足ラザレドモ縱位ニシテ頭部下方ニアルモノ前ノ反對ニシテ小顛門後方ニ向ヒ大顛門前方ニ向フトキハ其背部ハ右ニアルト左ニアルトヲ問ハズ所謂前頭位ト稱スルモノニシテ分娩中位置ヲ變ズレバ兎モ角然ラザル時ハ分娩困難ナルモノニテ從ツテ醫師ヲ煩ラハスヲ安全ナリトス。若シ夫レ頭蓋子宮底部ニアルモノ即チ臀位ニアリテハ全臀位膝位足位等母胎ニハ危險少ナシト雖モ胎兒ニ取りテハ豫後甚ダ疑フベキヲ以テ異常妊娠ト認メ速カニ醫師ヲ煩ハスヲ可トス。

第十七問 正規分娩ニ於ケル分娩ノ器械的作用ヲ説明セヨ

答 胎兒中最モ大ナル部位ハ頭ニシテ其大サト骨盤ノ大サトハ殆ンド同一ナルヲ以テ胎兒分娩スルトキハ兒頭ノ長徑線ハ骨盤ノ長徑線ニ適合シ一種ノ回轉ヲナサルベカラズ之ヲ分娩ノ器械的作用ト稱ス。第一及第二頭蓋位ハ此回轉ニ最モ有利ナルヲ以テ之ヲ正規トスレドモ頭位前頭位顔面位等ニ於テハ回轉ノ狀異ニシテ分娩困難ナルヲ以テ之ヲ異常分娩ト稱ス。第一頭蓋位第二頭蓋位ニテハ其回轉第一ニテハ兒頭左ヨリ前方ニ向ヒ第二ニテハ右ヨリ前方ニ向フノ差アル外毫モ難易輕重アルコトナシ。依テ今第一頭蓋位ニ於テ回轉ノ經過ヲ述ブレバ當初兒頭ハ母胎ノ左方ニ向ヒ陣痛ニ依リ骨盤入口部ニ壓迫セラレ、ヤ兒頭ノ最大徑線ハ骨盤ノ橫徑ト一致シ骨盤入口部ニ箝入スルガ子宮收縮愈々加ハリ胎兒ヲ壓スレバ其全壓力ハ脊柱ニ及ビ所謂脊柱壓トナリ稍々屈伏ノ状態ニアル兒頭ハ愈々頤部ヲ胸骨ニ接近シ以テ後頭部ハ骨盤軸ノ方向ト一致スルニ至ル之ヲ第一回轉ト稱ス。陣痛更ニ加ハリ兒頭壓下セラレ骨盤腔部ニ達スレ

バ骨盤ノ徑線ハ入口部ト異ナリ斜徑横徑ヨリ長キヲ以テ矢狀縫合ハ斜徑ト一致シ左方ニ位スル小顛門ハ左前方ニ右方ニ位スル大顛門ハ右後方ニ回轉シ骨盤ノ狹部ヲ經テ出口部ニ達スル時ハ尾骶骨ハ壓迫セラレ矢狀縫合ハ骨盤ノ最大徑線ナル直徑線ト一致スルニ至リ後頭部ハ前方ニ向ヒ恥骨弓下ニ來リ前頭ハ後方會陰ニ向フ之ヲ第二回轉ト稱ス。陣痛更ニ進メバ第三回轉ヲ始メ後頭ヲ恥骨弓下ニ當テ前頭及ビ顔面ハ漸次會陰ヲ滑リ出ヅルモノニシテ顛部ハ漸次胸部ヲ遠ザカリ顔面全ク外部ニ出ヅレバ恥骨弓下ニ位スル後頭産出シ頭部全ク産出ヲ終レバ回轉ノ爲メ多少捻振シタル頸部ハ自然ノ位置ヲ取り胎兒子宮内ニアリシ際ノ位置ヲ復シ顔面母ノ右腿ニ向フ之ヲ第四回轉ト稱ス。故ニ兒頭ハ第一及第二回轉ニテハ横軸ニ第三回轉ニテハ縱軸ニ回轉スルモノニシテ兒頭回轉ノ際肩岬部ハ骨盤入口部ニアリテ其横徑線ハ頭ノ矢狀縫合ト反對ノ斜徑線ニ一致シ骨盤内ニ進入スルモノ即チ第一頭蓋位ニテ頭部右斜徑線ニアルモノニテハ肩岬ハ左斜徑線ト一致シ第二頭蓋位ニテ頭部左斜徑線ト一致スルモノニシテ右斜徑線

ト一致シ下降スルモノニテ第一頭蓋位ニテハ肩岬部骨盤ノ出口ニ達スレバ右肩岬部ヲ左上方ニ進メ之ヲ恥骨弓下ニ抵テ左肩岬會陰ヲ滑リ産出ス。

第十八問 開口期ニ於ケル産婆ノ處置ハ如何ン

答 開口期ニ於ケル産婆ノ處置ハ寧ろ消極的ニシテ自然ニ起ル處ノ分娩機能ヲ圓滿ニ進行セシムルニアリテ分娩時機ハ人爲的ニ左右スベキモノニアラズ。故ニ産婦ニ對シテハ慰安ヲ專ラトシ分娩ハ必ず安穩ナルベク決シテ毫モ憂慮スベキ點ナキ事ヲ懇諭シ睡眠ヲ催スアレバ安靜ニシテ眠ラシメ然ラザルモノニ於テハ室内ノ運動又ハ坐スルナリ椅子ニ掛ケルナリ心ノ儘ニセシムベキモ經産婦ニシテ前回分娩ノ經過早カリシモノニ於テハ注意ヲ怠ラズ少シク陣痛ヲ發スレバ直ニ臥床ニ就カシムベシ。大小便ノ蓄積ハ陣痛ノ發作ヲ妨グルヲ以テ之ヲ排除セシメ膀胱及ビ直腸ヲ空虚ニスルコト肝要ニシテ小便ハ自ら排除セシメ若シ自利シ得ザルトキハ舐ヲ前方ニ屈セシメ或ハ腔前穹隆部ヲ壓シ兒頭ヲ押上

ゲ猶ホ排尿シ難キトキハ「カテール」ヲ用ユヘク問診上屢々大便ヲ漏シタルコト明ラカナルカ或ハ腔内検査上毫モ直腸内ニ糞便ヲ認メザル際ノ外ハ石鹼灌腸ヲ行ヒ之ヲモ悉ク排除セシムベシ。産婦ノ検査ハ屢々繰返シテ行ハザルヲ可トス特ニ腔内指診ハ嚴重ナル消毒法ヲ行フモ猶ホ行ハザルノ安全ナルニ若カザルヲ以テ成ルベク之ヲ避クベキモ胎兒ノ位置子宮口開大ノ程度胎胞ノ狀況等ヲ檢スル必要アリテ止ムヲ得ザルトキハ陣痛ノ間歇時ヲ撰ミ子宮腔部ヲ刺戟セザル様ニナシ胎胞ニハ特ニ注意ヲ加ヘ破裂セザル様ニシテ行フベシ。胎胞ハ分娩經過ヲ圓滿ナラシムルニ必要ナルモノニシテ是アリテ始メテ疼痛少ナク且ツ比較的速カニ頸管ヲ開大シ分娩道ヲ安全ニ形成セシメ得ルヲ以テ可及的長ク保存セシムルコト肝要ナレドモ頸管ハ既ニ擴張セラレ腔ト同大トナリ粘液中ニハ少シク血液ヲ混ジ兒頭ハ著シク下降スルトキハ所謂人工的破水法ヲ行ヘバ分娩ノ經過ヲ短縮シ得ルコトアリ。腔内ノ洗滌ハ通常行フニ及バネドモ若シ尿道ヨリ膿汁ヲ漏スカ腔内ヨリ多量ノ漏液ヲ出シ淋毒ノ疑ヒアルトキハ一%「リゾー

ル」水又ハ二%石炭酸水ニテ洗滌スルヲ要スルモノニシテ此際外陰部ノ清潔法ニモ注意ヲナシ「ガーゼ」ニ消毒液ヲ浸シ能ク清拭セネバナラヌ。陣痛頻繁トナリ且ツ其強サヲ増ストキハ産床ニ臥セシムベク其位置ハ仰臥側臥何レニテモ産婦ノ希望ニ任スベキモ倚坐位ハ陣痛ヲ促シ易キヲ以テ常ニハ之ヲ避ケシメ陣痛微弱ナルトキニハ倚坐位トナシ少シク腹部ヲ按スベキモ腹壓ハ決シテ加ヘシムベカラズ。腹壓ノ要ハ産出期ニアルモノニシテ安リニ腹壓ヲ用ユレバ疲勞シテ産出期ニ之ヲ行ヒ難キコトアルヲ以テ開口期ニハ成ルベク之ヲ避ケシメ且ツ稍々長時間ヲ要スルモ決シテ憂フルコトナキ旨ヲ諭スベシ。但シ陣痛長ク起ラザルカ或ハ陣痛起ルニ拘ラズ長ク胎兒下降セザルトキハ陣痛微弱狹窄骨盤若シクハ兒頭ノ過大等何カ分娩ノ障害ヲナスニアラザルヤニ着目シ其原因ヲ研究スルコト必要ナレドモ診斷確定セザル前安リニ口外シ産婦ニ心配ヲ起サシムルガ如キコトアリテハナラズ。故ニ先ヅ仰臥位ヲ取り兒頭ヲ骨盤内ニ籍入セシメントシ若シクハ腹部ヲ按ジテ陣痛ヲ催ス傍ラ骨盤ノ太サヲ計測スベキデ

第十九問 産出期ニ於ケル産婆ノ處置法ハ如何

答 胎胞既ニ破レ産道形成セラルンバ胎兒ハ自ラ下降スルモノニシテ産婦ハ思ハズ努責ヲナシ放置スルモ分娩シ得ルモノナレドモ産婆タル者ハ陣痛ハ正當ニ發作シ胎兒ハ正規ノ位置ヲ以テ下降シツ、アルヤニ注意シ殊ニ其健否ヲ確カムルコト肝要ナルヲ以テ時々腹部ニ於テ胎兒ノ心音ヲ聽キ其數百二十至以下ナルカ或ハ百六十至以上ナル時ハ醫師ヲ煩ラハスヲ可トス。胎兒ノ位置ハ外診ノミニテハ明ラカナラザルヲ以テ胎胞破裂ノ後兒頭ノ方向即チ大顛門及縫合ノ方向ヲ檢スルコト必要ナレドモ内診ハ嚴重ナル消毒法ヲ行フモ猶ホ危險ヲ招カレザルヲ以テ一回以上ハ行ハザルベク且ツ其際ハ臍帶又ハ四肢ノ脱出ナキヤニ注意シ又破水ノ際ニハ羊水中胎便ヲ混ズルヤ然ラザルモ惡臭等ナキヤニ注意スベシ。産婦ノ位置ハ仰臥側臥何ニテモ其望ミニ任カスベキモ手ニ物ヲ握リ足

ヲ固定スレバ努責ニ便ナルヲ以テ其用意ヲナシ陣痛發作ノ際腹壓ヲ加フベキ旨ヲ教ヘ間歇時ニ於テハ努責ノ要ナク努責スルモ爲メニ分娩ヲ早メルモノニアラズト諭シ且便意ヲ催スコトアルモ上圍ヲ禁ズベシ。腹壓ハ胎兒ノ下降ヲ助クルニ力アリト雖モ身体虛弱ナル人肺心臟等ノ疾患アル人及脱腸脱肛等アル人ニ於テハ後害ヲ殘スヲ以テ之ヲ禁ジ分娩ハ稍々多クノ時間ヲ要スルモ自然ニ放任スベシ。然レモ陣痛甚ダ微弱ナルカ若クハ仰止シ兒頭一定ノ位置ニ長ク止マル時ハ軟部ハ硬固ナル兒頭ト恥骨縫合トノ間ニ壓迫セラレ壞疽ヲ起シ又ハ胎兒モ死亡スルコトアルヲ以テ速カニ醫師ノ助力ヲ仰ガネバナラヌ。兒頭下降シ肛門ヲ壓スル時ハ産婦ハ荐リニ便通ヲ訴フレドモ壓迫ノ爲メニ起ル感覺ニ外ナラサレバ須ラク大便ヲ漏スベキ旨ヲ諭シ既ニ會陰ヲ壓シ陣痛毎ニ該部ヲ壓出スルニ至レバ會陰ヲ保護シ兒頭外部ニ現ハル、ニ至レバ「ガーゼ」ヲ以テ口及鼻ニ附着スル粘液ヲ清拭シ一手ノ手指ヲ頸部ニ輪リ臍帶ガ頸部ニ纏絡スルコトナキヤヲ檢シ纏絡スル時ハ其容易ニ引出シ得ル方ヨリ之ヲ解除スベキモ緊張シテ頭

部ヲ越ヘシメ難キトキハ二重結紮ヲ行ヒ中央ニテ切斷シ兒頭ヲ把持シ亞テ起ル處ノ陣痛ト共ニ牽出スベシ。若シ二三分間ヲ經ルモ陣痛發作セザルトキハ子宮底部ヲ輕ク摩擦シ且ツ子宮口ノ方向ニ壓シ同時ニ努責ヲ行ハシムレバ分娩シ得レドモ猶ホ産出シ得ザルトキハ兒頭ヲ兩手間ニ狹ミ會陰ノ方向ニ壓シ肩胛部耻骨弓下ニ現ハル、ニ及ビ弓下ニ位スル肩胛ヲ引擧グレバ容易ク産出シ得ベキモ猶ホ産出セザルトキハ一手ノ手指ヲ兒背ニ沿ヒテ腔内ニ輪リ會陰部ニ存セル腋窩ヲ鈎狀ニ掛ケ他手ニテ兒頭ヲ把持シツ、牽出スベシ。斯ノ如ク娩出スル際ニ於テモ尙會陰ノ保護ヲ忘ル、コト能ハサルモノニシテ會陰ハ兒頭分娩ノ際薄弱トナリ居ルヲ以テ特ニ注意セザレバ破裂ヲ起シ易シ。産出シタル胎兒ハ産婦ノ股間或ハ側臥ナレバ後方ニ仰臥セシメ温カナル襁褓ヲ以テ被包シ消毒シタル「ガーゼ」ヲ以テ被ヒ臍帶ノ臍動緩慢トナルヲ待テ結紮ヲ行ベキモノトス。

第二十問 分娩ノ際會陰保護ノ必要ナル所以ヲ説明セヨ

答 産出期進ミ兒頭將サニ外陰部ニ出デントスルトキハ頂部ヲ耻骨弓下ニ當テ顔面ハ額部ヨリ鼻部頤部ト順次會陰ヲ滑リ出ルモノニシテ陣痛適宜ニ起リ會陰ノ組織彈力ニ富ムモノニテハ自然ニ放置スルモ大過ナケレドモ老人ニテ彈力少ナキカ或ハ過劇陣痛ニテ陣痛ノ發作劇陣ナルトキハ頤部第三回轉ヲナサズシテ直下ニ向ヒ會陰ヲ破リ産出スルモノニテ甚ダシク會陰ヲ傷クルコトアリ。後連合ノミナルカ或ハ會陰ノ一部破裂スルニ止マルトキハ産褥中自ラ治癒シ大害ヲ殘サレドモ大損傷ヲ起ストキハ爾來陰門ハ開放セラレ腔脱子宮脱等ヲ起スノミナラズ産褥中細菌ノ進入ヲ便ナラシムル恐レアルヲ以テ産婆タルモノハ破裂ノ防止ニ細心注意セザルベカラズ。此防止法ヲ會陰保護術ト稱シ兒頭ノ第三回轉ヲ助ケ會陰ノ急劇ナル緊張ヲ避ケ兒頭ヲシテ徐々ニ會陰ヲ通過セシムルヲ目的トスルモノナルガ兒頭強ク會陰ヲ壓出スルニ當リ行フベキモノニシテ妄リニ會陰ヲ壓スレバ却ツテ兒頭ノ下降ヲ妨ゲ分娩ヲ遲延セシム。會陰保護

術ハ産婦ノ位置仰臥ナルト横臥ナルトニ依リテ異ナルモノニシテ側臥位ナルトキハ大枕子ヲ股間ニ挿入シ上側ニアル下肢ヲ稍々強ク屈セシメ後方ニ坐シ局部ヲ見易カラシムルベシ。此位置ハ仰臥位ニ比スレバ陣痛ノ發作緩徐ナルヲ以テ先ヅ此位置ヲ取ラシムベキモ陣痛弱キトキハ仰臥位ヲ用ユベク又側臥位ノトキハ胎兒ノ後頭部ノ存スル方ヲ下ニスルヲ要スルモノニシテ第一頭蓋位ナレバ左側ヲ第二頭蓋位ナレバ右側ヲ下ニスベシ。保護ヲ行フトキハ局部及ビ産婆ノ手指ヲ清潔ニシ且ツ消毒スルノ後左臥スル者ニ對シテハ右手ヲ會陰部ニ貼シ指ヲ開キ拇指ヲ右陰唇上ニ他ノ四指ヲ左陰唇上ニ加ヘ拇指ト示指ノ間ニ陰唇繫帶部ヲ抵テ左手ヲ前方ニ輪リ耻骨縫合上ニ於テ股間ヲ潜リ手指ヲ並列セシメテ兒頭ニ貼シ兒頭壓下シ來ルノ際後方ノ手ヲ以テ兒頭ヲ骨盤内ニ壓入スルガ如ク且ツ耻骨弓ニ向ヒ壓上スルト同時ニ前方ノ手ヲ以テ額部ヲ前方ニ引キ以テ第三回轉ヲ助ケ陣痛休歇時ニハ之ヲ緩メ發作時ニハ再ビ怒責ヲ禁シ成ルベク進行ヲ遲延セシムベシ。仰臥位ノモノニ於テハ枕子ヲ臀下ニ挿入シ兩脚ヲ開カシメ産

婆ハ右側ニ坐シ右ノ手掌ヲ會陰部ニ貼シ腕部ヲ繫帶部ニ手指ヲ肛門ヲ超ヘテ後方ニ向ケ左指ヲ耻骨縫合上ニ輪リ前述ノ心得ヲ以テ陣痛時ニ兒頭ヲ前方ニ向ケ壓上シ以テ回轉ヲ助クベシ。若シ兒頭ハ深ク腔内ニ下降スルモ長ク外部ニ現レザルトキハ顔面ヲ壓出セシムルコトヲ要スルモノニシテ一手ヲ以テ兒頭ヲ保持シ薄キ軟部ヲ隔テ、肛門ト尾骶骨トノ間ニ於テ顔面ヲ探リ之ヲ前方ニ向ケ壓上スベシ。此處置ハ肩岬産出ニ於テモ臀位ニ於テモ同様ナルガ前頭位ニ於テハ殊ニ必要ニシテ細心注意セザレバ破裂ヲ起スコトアリ若シ會陰ノ破裂繫帶ニ止マラス一仙迷以上ニ及ブトキハ早速縫合ヲ行フコト肝要ナルヲ以テ速カニ醫師ノ手當ヲ受ケシムベシ。

第二十一問 後産期ニ於ケル産婦ノ處置ハ如何ン

答 胎兒産出スレバ産婦ハ爽快ヲ感じ一二分乃至五分ヲ經レバ下腹部ノ微痛ヲ訴ヘ暫時休憩ノ後更ニ稍々強キ陣痛ヲ發シ後産即チ卵膜臍帶胎盤ト共ニ産出

スルヲ常トス。此際稀ニハ惡寒戰慄ヲナスコトアリト雖モ多クハ直ニ止ムヲ以テ產婆ハ產婦ヲ慰諭スルト共ニ細心注意ヲ要スルモノハ子宮ハ能ク收縮スルヤ否ヤ及ビ出血ナキヤニシテ下腹部ニ手ヲ貼シ子宮底部ハ臍部ノ高サニアリテ硬固ニ觸ルレバ安心ナルモ柔軟ニシテ抵抗ナキトキハ子宮弛緩シテ收縮セザルモノト知ルベク若シ腔内ヨリ多量ノ血液流出スルコトアレバ出血ノ原因ハ何レニアルヤヲ知ルコト必要ニシテ先ヅ腔及ビ外陰部ノ外傷ヲ檢シ何ヲモ發見セザルトキハ子宮内ヨリ出ルモノト知ルベシ。外部ノ出血ハ大損傷ニアラザル限リハ少シク壓迫ヲ加フレバ暫時ニシテ止血シ得ベク子宮腔部ノ出血モ又自ラ止血スルヲ常トスレドモ子宮收縮不全ノ爲メ出血スルモノハ斷裂シタル胎盤部ノ血管口哆開シ該部ヨリ出血スルヲ以テ速カニ應急ノ處置ヲナサルベカラズ。故ニ產婆ハ腹部ニ於テ子宮底部ノ輪狀摩擦ヲ行ヒ陣痛ヲ促スベキモ陣痛起ラズ腹部硬固トナラザルトキハ所謂陣痛微弱ニ陥リタルモノニテ外部ノ出血ハ止ミタリトモ注意セザレバ内出血ヲ起スコトアルモノニテ貧血ノ狀ヲ呈スルトキハ

速カニ醫師ヲ煩ハサルベカラズ。出血其他異常ナキトキハ外陰部ニ消毒「ガーゼ」ヲ貼シ胎盤ノ剝離ヲ待ツベシ陣痛稍々強ク起リ子宮縮小シ出血ト共ニ臍帶著シク腔内ニ下降スルトキハ胎盤剝離セシ徵候ニシテ兩手ヲ以テ胎盤ヲ握リ少シク捻轉シツ、之ヲ引出セバ卵膜ヲ破ルコトナク能ク娩出スルコトヲ得。娩出シタル胎盤ハ翻轉シ其子宮面ハ外部ニ現ルベキヲ以テ其一部斷裂シ居ルトキハ直ニ發見スルコトヲ得ヘシ。分娩後三十分ヲ經ルモ胎盤下降セザルトキハ稍々強ク子宮ヲ摩擦シ努責ヲナサシムベキモ尙下降セザルトキハ「クレデー」氏ノ法ニ從ヒ陣痛時ヲ待チ一手ノ拇指ヲ子宮前方ニ他ノ四指ヲ後方ニ輸リ手掌ヲ子宮底部ニ貼シ腹壁上ヨリ子宮ヲ握ルガ如クシテ薦骨ニ向ヒ五六回壓迫ヲ試ムレバ多ク目的ヲ達シ得レト二時間以上モ下降セザルトキハ醫師ニ托シ決シテ自ラ子宮腔部ニ手ヲ入レ或ハ臍帶ヲ索引スル等ノ處置ヲ行フベカラズ。此法ハ必ズ陣痛發作時ニ行フモノニシテ陣痛ナキ際妄リニ壓迫ヲ行ヘバ無効ナルノミナラズ或ハ却テ不正ノ收縮ヲ起シ胎盤ヲ遺殘セシメ爲メニ產褥熱ノ如キ危險

症ヲ誘起スルコトアリ。後産排泄後ハ兩脚ヲ開カシメ兩指ヲ以テ陰唇ヲ開キ外陰部ヲ檢シ會陰破裂一仙迷以上ナルトキハ直ニ醫師ニ縫合ヲ托スベキモ異常ヲ認メザルトキハ腹部ニ手ヲ貼シ更ニ子宮ハ能ク收縮スルヤ否ヤヲ確メ胎盤ヲ受器ニ納メ温ナル「リゾール」水ニテ外陰部及ビ大腿等ヲ洗滌シ手捷ク汚物ヲ取除キ清潔ナル壓抵布ヲ外陰部ニ貼シ腹部ノ繃帶ヲ施スベシ。

第二十二問 分娩直後産婦ノ處置ハ如何ン

答 産婦分娩ヲ終レバ先ヅ腹部ニ手ヲ貼シ子宮内ニハ猶ホ一子存スルニアラザルカ又能ク收縮スルヤヲ檢スルコトヲ要スルモノニテ一兒ヲ存スルトキハ分娩ヲ終リタルニ拘ラズ腹部ハ膨滿シ且ツ硬固ニシテ仔細ニ檢スレバ胎兒ノ部位ヲモ觸知シ得ルヲ以テ明ラカナルベク然ラズシテ腹部ハ柔軟ニシテ少シク摩擦スレバ收縮ヲナシ耻骨縫合上小兒頭大ノ硬固塊ヲ觸ル、トキハ子宮能ク收縮スルモノト知ルベシ。亞テ檢スベキハ外陰部ニシテ出血アレバ其出處ヲ檢シ前

庭後連合等ノ外傷ナレバ直ニ之ヲ發見シ得ベク外部ニ外傷ナキモノハ多ク子宮ノ收縮不全ニ起因スルモノナルヲ以テ子宮ヲ摩擦シ收縮ヲ促シ止血ヲ試ムベク猶ホ出血多クシテ産婦益々貧血ニ陥ルトキハ醫師ノ來診ヲ請フベシ。但シ子宮内ニ貯溜シタル血液流出スルトキハ往々新シク出血スルモノト誤認スルコトアルヲ以テ須ラク腹部ヲ壓シ惣テ貯溜シタル血塊ヲ壓出シ猶ホ出血スルヤ否ヤヲ檢スベシ。會陰ノ外傷ハ大ナラザルトキハ褥中自ラ治スルモノニテ擊帶大ノ裂傷若クハ創傷會陰ニ及ブモ一仙迷以下ナレバ防腐繃帶ヲ施シ置ケバ縫合ヲナスニ及バズ。亞テ檢査スベキハ排泄シタル胎盤ニテ胎盤卵膜ト共ニ缺損ナク全部排除セラレタルヤ否ヤヲ調査スルニアリテ缺損アルトキハ其處置ヲ醫師ニ計ルベシ。惣テ此檢査ヲ終リタルトキハ百倍ノ「リゾール」水又五十倍ノ石炭酸水ヲ以テ外陰部大腿内側等ヲ清拭シ汚物ヲ取除キ新シキ臥床ニ移スカ或ハ然ラザルトキハ布團ヲ臀下ニ敷キ外陰部ニ壓抵布ヲ貼シ丁字繃帶ヲ以テ固定シ腹帶ヲ施スベシ。此際汚レタル衣服濕潤シタル襯衣等ヲモ交換スルコト肝要

ナレドモ身体ヲ動カスハ頗ル危険アルヲ以テ細心注意シ且ツ手捷ク處置スルヲ要ス。腔内ノ洗條ハ通常其要ナク妄リニ行ヘバ却ツテ細菌ヲ誘導スルノ恐れアルヲ以テ之ヲナサルヲ可トス。又會陰部ノ外傷ニ對シテハ沃度「フョルム」ヲ撒布シ乾燥シタル脫脂綿ヲ貼シ兩脚ヲ閉ヂナガラ展伸シテ臥セシムレバ可ナルモノニテ決シテ他ノ治療的處置ヲナスベカラズ。壓抵布ハ外陰部ニ流出スル血液漏液等ヲ受クルニアリテ巾三寸長サ七寸ノ長方形ノ木綿ヲ以テ外陰部ニ貼シタル脫脂綿ヲ固定スルニアリ腹帶トハ腹壁ノ弛緩ヲ防ギ子宮ノ收縮ヲ催進スルニアリテ子宮上ニ綿花四五枚ヲ折り重ネ長サ三尺余ノ布片ノ中央一尺斗リヲ殘シ兩端ヲ四五片ニ斷チタルモノヲ後方ヨリ前方ニ廻ハシ互ニ折り重ネ置クニアリ。

第二十三問 産出シタル初生兒ハ如何ニ處置スベキカ

答 胎兒産出スル時ハ「ガーゼ」又ハ脫脂綿ヲ以テ口及鼻ニ附着シタル粘液ヲ

清拭シ臍帶ヲ引出シ牽引又ハ壓迫スルコトナキ様注意シ仰臥シタル母體ノ兩脚間ニ置キ豫メ用意シタル清潔ニシテ温暖ナル布片ヲ以テ身体ヲ被ヒ呼吸スルヤ否ヤニ注意シ若シ十分ニ呼吸ヲ營マサル時ハ手掌ヲ以テ臀部又ハ心窩部ヲ輕ク打ち又ハ冷水ヲ胸部ニ注ギ呼吸ヲ促スベシ。臍帶ハ産出後二三分乃至五六分ヲ經臍帶ノ搏動微弱トナルヲ待チ處置ヲナスベキモノニシテ先ヅ臍部ヲ距ツル約三指横徑ノ部ヲ消毒シタル絹糸又ハ麻糸ヲ以テ硬ク結紮シ更ニ三指横徑ヲ距テ第二結紮ヲ行ヒ兩結紮部ノ中間ニ於テ臍帶ヲ切斷シ斷端部ヲ注視シ些シモ出血スルコトナキヲ認メタル上沐浴ニ取掛ルベシ。臍帶ノ搏動ハ小兒健全ニシテ呼吸活發ナレバ早く停止スルモノニシテ七八分ヲ經ル時ハ搏動ノ如何ニ拘ラズ結紮シテ可ナリ。此際母體ニ注意シ子宮能ク收縮シテ出血ノ狀ナキ時ハ其儘小兒ノ處置ヲ行フベキモ若シ腹部弛緩シ陣痛起ラズ多量ノ出血アルトキハ腹部ヲ摩擦シ陣痛ヲ促シ先ヅ止血ヲ行ハザルベカラズ。小兒ヲ沐浴セシムルニハ清潔ナル沐槽内ニ攝氏四十度ノ温湯ヲ取り此内ニ入レ左手ニテ小兒ヲ抱キ右

手ニ布片ヲ持チ身体ニ附着シタル粘液血液等ヲ洗滌スルヲ要スルモノニシテ胎脂硬固ニシテ容易ニ洗除シ得ザルトキハ「オレーフ」油卵黃等ヲ塗布シ力ヲ用ヒズシテ洗滌スルヲ要ス。四十度ノ温度ハ自ラ手ヲ入ル、モ余リ熱ヲ感ゼザル底ノモノナルガ若シ熱高キニ過グルトキハ皮膚ノ損傷ヲ起シ臍部ノ治癒ヲ妨ゲ又神經ヲ刺戟シ甚ダシキハ痙攣ヲ起スコトアリ又眼中ニ不潔物入レバ眼炎ヲ起スコトアルヲ以テ顔面ハ別ニ備ヘタル清水ニテ洗フベシ。此際尙ホ注意スベキハ兎唇鎖肛鎖脛贅指等ノ畸形ニシテ若シ之アルヲ發見セバ母ニ告グズシテ家族ト計リ醫師ヲ招カシムベシ。浴後ハ少シモ身体ニ濕氣ヲ殘サバル様拭取ルコト肝要ニシテ殊ニ股間腋窩等ハ注意セザレバ糜爛炎症等ヲ發シ又頭部ニ不潔物附着スレバ濕疹等ヲ發スルコトアルヲ以テ特ニ注意ヲナシ浴後ニハ更ニ臍部ヲ檢シ出血ナキヤヲ認メ硼酸末ヲ散布シ殺菌「ガーゼ」ヲ以テ臍帶ヲ被ヒ臍繃帶ヲ以テ腹部ニ固定シ股間ニハ柔軟ナル襪襪ヲ貼シ衣服モ亦タ柔軟ナルモノヲ用ヒ温暖ナル床上ニ安ンシニ 2% ノ硝酸銀水ヲ兩眼ニ點スベシ。硝酸銀水ハ母臍

ニ麻毒ノ憂ヒナキトキハ其要ナキガ如クナレドモ臍内ニ膿汁ヲ認メズ排尿ニモ異常ナカリシ際ニモ麻菌潜伏スルコトアリ且ツ此点眼ハ後害ヲ殘サバルヲ以テ毎回行フベシ。臍帶繃帶ハ方三寸ノ「ガーゼ」ノ中間ヲ切り更ニ中央部ヲ横ニ切り臍帶ヲ此處ニ通シ周圍ヨリ被包スルニアリテ腹部ヲ纏フ繃帶ハ巾四指横徑長サ五十仙迷ノ布片ヲ用ユルヲ可トス。此際母臍ニシテ結核熱性病其他ノ著シキ疾病ニ罹リ居ルニアラザル外ハ自ラ授乳スルヲ可トスルモノニテ直チニ乳房ヲ與ヘ他ノ飲料物ヲ用ヒシメズ襪襪ハ時々交換シ清潔ニ保持スベキ旨ヲ諭スベシ。

第二十四問 双胎トハ如何ナルモノカ及其分娩ハ如何

答 双胎トハ二胎同時ニ子宮内ニ發育スルモノニシテ二個ノ卵同時ニ受胎スルコト、一個ノ卵中ニ二個ノ精虫侵入スルニ因ルコト、アルモノニシテ之ヲ一卵性又二卵性双胎ト稱ス。受胎ハ必ラズ同時ニ起ルベキカ將又時ヲ異ニシテ

起ルベキカハ疑問ニシテ人或ハ二胎ノ太サニ異同アルト又分娩ノ時間ノ遅速アルヲ以テ受胎ガ同時ニアラザルコトヲ證セントスルコトアレドモ其大小アルハ營養分ヲ受クルノ多少ニ因ルモノニシテ一卵性ノモノト雖モ必ズシモ同一ノ太サヲ見ルコトナク又分娩ノ遅速アルハ一兒分娩ノ後子宮ノ緊張緩解スルコトアレバ第二兒ノ分娩ハ後ル、モノニテ二者共ニ其證據トスルニ足ラズ。胎兒ト卵膜トノ關係ニ付テハ羊膜ハ卵子ヨリ發生スルヲ以テ二個ノ羊膜互ニ接着斷裂シ中間部消失シタル際ノ外ハ一卵性タルト二卵性タルトニ拘ラズ必ラズ各自ニ存シ絨毛膜ハ卵ノ外部ヨリ發スルヲ以テ二卵性ノモノニアリテハ各自ニ之ヲ存スレドモ脫落膜ハ子宮粘膜炎ヨリ發生スルヲ以テ一卵性ニテモ二卵性ニテモ共通ナルヲ常トス。胎盤ハ二卵性ニテハ二個ヲ存スルカ或ハ二個互ニ接合スレドモ一卵性ニテハ一個ニシテ且ツ其血管モ互ニ吻合シ甚シキハ臍帶モ胎盤ノ附着部ニ於テハ兩者合一スルコトアルナリ。男女ノ關係ハ一卵性ノモノハ常ニ同性ナレドモ二卵性ノモノニ於テハ同性ナルコト、異性ナルコトアリ。双胎ノ

診斷ハ頗ル困難ニシテ二個ノ兒軀部ヲ明ラカニ觸知スルカニ箇所ニ於テ同一ノ心音ヲ聽取スレバ双胎ナルコト明ラカナレドモ二胎左右ニ並列スルカ一個ノ兒頭ハ子宮底部ニ他ノ兒頭ハ耻骨縫合上ニ存スル等ノ場合ニ限ルモノニテ妊娠ノ月數ニ比シ腹部ノ過大ナルガ如キ又單ニ腹部中央ニ凹溝ヲ見ルガ如キニテハ双胎ト斷定シ難シ。但シ分娩時ニ於テハ其診斷容易ニシテ一兒分娩スルモ猶ホ腹内ニ一兒ヲ存スレバ明ラカナルガ然ラザルモノ二個ノ同名手又ハ同名足ヲ外部ニ露ハスカ若クハ脫出シタル臍帶ニ搏動ナクシテ腹部ニ於テ心音ヲ聽取シ得ル等ハ此診斷ヲ明カナラシムモノナリ。分娩ノ時期ハ腹部ノ膨滿甚ダシキヲ以テ單胎ノモノヨリモ一二週間早キヲ常トシ腹部膨滿ノ爲メ陣痛微弱ヲ發シ易ク小兒ノ發育ハ稍々不良ニシテ分娩後ハ死亡シ易シ。分娩ノ機轉ハ正規分娩ト同ジク且ツ多クハ經過圓滿ニシテ第一兒ハ第二兒分娩後十五六分稀レニハ數時間ヲ經レバ胎胞ヲ形成シ第一兒ヨリハ速ヤカニ分娩ス。双胎分娩ノ處置トシテ特ニ注意スベキハ第一兒分娩ノ後胎盤剝離後ノ爲メ第二兒危險ニ陥ルコトア

ルヲ以テ能ク心音ニ注意シ危際ニ陥ルトキハ速ヤカニ分娩ヲ終ラシムベク又第一兒ノ臍帶結紮ニ於テハ屢々注意ヲナサレバ出血スルコトアリ。二兒同性ナルトキハ何レガ先ニ分娩セシカヲ誤ラザル様ニ目標ヲ附スルコト必要ニシテ然ラザルトキハ後日兄弟ヲ定ムルニ當リ家族ニ問ハレ大イニ迷フコトアリ猶ホ又其發育不良ナルトキハ其手當ヲモ怠ラザル様家人ニ忠告スルコト肝要ナリ。

第二十五問 正規産褥トハ何ヲ云フカ。

答 正規産褥トハ分娩ヲ終リタル後妊娠ノ爲メ生殖器及全身ニ起リタル變狀ガ常態ニ復スル期間ヲ云フモノニシテ六週乃至八週間ヲ要シ其婦人ヲ褥婦ト稱ス。分娩ヲ終レバ産婦ハ稍々惡寒ヲ自覺シ暫時ニシテ温暖トナリ發汗ヲナシ爽快トナリ睡眠ヲ催シ往々少シク發熱スルコトアレドモ直ニ常溫ニ復ス。此際子宮ノ内面特ニ胎盤ノ附着部ハ創面ヲ呈スルガ子宮ハ漸次縮少シ爲メニ斷裂サレタル血管口ハ縮少シテ止血スレドモ猶ホ多少ノ出血アリ加フルニ創面ヨリ

スル分泌物多量ナルヲ以テ血液ハ分泌物ト共ニ腔ヨリ排除セラル、モノニシテ之ヲ惡露ト稱シ初メ二日間ハ血液ノ稍々粘稠ナルモノニ類シ第三日ニハ血色少シク減ジ淡赤色トナリ一種ノ甘性臭氣ヲ呈シ漸次稀薄トナリ第八日ニナレバ帶黃白色ノ粘稠液トナルモノニシテ之ヲ血性惡露漿液性惡露白色惡露ト稱スルガ量モ亦タ褪色スルト共ニ漸次減少シ第五週ニ至レバ殆ド全ク止ム。此收縮ハ多少疼痛ヲ伴フモノニシテ之ヲ後陣痛ト稱シ分娩輕易ナリシモノニテハ比較的強クシテ長ク初メ強カリシモノニテハ輕キヲ常トスルモノニテ初妊婦ニテハ殆ンド後陣痛ヲ訴ヘザルモノアルニ反シ數回分娩シタルモノニテハ後陣痛分娩前ヨリ却テ強キコトアリ。子宮ノ收縮ハ授乳ニモ關スルモノニテ授乳スルモノニテハ收縮早ク然ラザルモノニテハ比較的長時間ヲ要ス。是レ乳房ノ刺戟子宮ノ收縮ヲ促スニ因ルモノニシテ産褥中乳房ハ漸次増大シ乳汁ノ分泌ヲ始ムルニ反比例ニ生殖器ハ縮少シテ常態ニ復ス。此際腹部ヲ按スレバ子宮底部ハ臍ト耻骨縫合ノ中間ニ位シ第二日ニハ著シク縮少シ第三日ヨリハ漸次下降シ八

九乃至十日ノ後ニハ耻骨縫合ノ後方ニ入り第十二日ニ至レバ少シモ觸知シ得サルニ至ル。若シ子宮收縮セズシテ分娩後猶ホ臍部ニ達スルトキハ其原因ヲ質シ先ヅ膀胱又直腸ヲ空虚ニシ縮少ヲ促スベキモ猶ホ膨滿スルトキハ凝血又ハ胎盤遺殘ニ因スルモノトシテ醫師ノ診斷ヲ請ハシムベク十日以後ニ於テ收縮セザルモノモ亦タ復故機能不全ナルモノニテ放棄スベキニアラズ。子宮ノ收縮ト共ニ他ノ部モ收縮スルモノニテ子宮腔部ハ分娩後前後二片トナリ腔内ニ下垂シ頸管内ニハ自由ニ手指ヲ挿入スルコトヲ得レドモ漸次縮少スルモノニテ四五日ヲ經レバ頸管ニハ僅ニ一指ヲ挿入シ得八日ヲ經レバ閉鎖シテ小指尖ヲモ挿入シ得ザルニ至ル。然レドモ頸管ハ分娩前ノ如ク圓形ナラズ橫裂狀ヲナシ且ツ數個ノ小裂痕ヲ呈スルモノニテ子宮モ亦タ分娩前ニ比スレバ稍々長シ。腔管モ分娩後ハ漸次縮少シ分娩直後ニハ優ニ手拳ヲ挿入シ得タルモノ十日ヲ經レバ著シク狭クナレドモ分娩前ニ比スレバ廣クシテ皺襞ヲ失ヒ平滑トナリ入口部ニ存セシ處女膜ハ斷裂セラレ「ミルチ」狀肉阜ヲ遺殘スルニ過キズ後連合部其他ノ

稍々大ナル裂傷ハ全ク癒着セズシテ癍痕ヲ生ズ。此外産褥ノ經過圓滿ナルトキハ脈搏及ヒ呼吸緩徐トナリ便秘シ易ク皮膚ハ發汗ノ爲メ濕潤シ口渴ヲ訴ヘ食慾ハ初メ二三日間少シク減少スレドモ後ニハ増進ス特ニ授乳者ニ於テハ著シ。

第二十六問 産褥中乳房ノ變化及其授乳時ノ心得ヲ説明セヨ

答 乳房ハ妊娠二三ヶ月ヨリ漸次増大シ七八ヶ月ニ至リ之ヲ壓スレバ水様液ヲ分泌スルモノナレドモ著シク膨張スルハ分娩後ニシテ分娩後二三日ヲ經レバ皮膚緊滿シ皮下靜脈怒張シ知覺過敏トナリ疼痛ヲ發シ緊滿疼痛ハ一二時間ニシテ排泄増加スレバ漸次緩解スルコトアリ熱モ減スルモノニテ哺乳多ケレバ從テ多ク乳汁ヲ分泌ナシ分娩後授乳ヲ廢スルトキハ一時緊張スルモノ二三日ヲ經レバ漸次萎縮ス。當初分泌スルモノハ初乳ト稱シ半透明粘液狀ニシテ下痢ノ特性ヲ有スルヲ以テ生後直チニ之ヲ授クレバ嬰兒ハ自ラ胎便ヲ泄ラスモノニテ下劑ヲ用ユルニ及バズ。眞ノ乳汁ハ分娩後四五日ヨリ分泌ヲ始メ帶黃白色不透明

ニシテ多クノ乳球ヲ含ミ嬰兒ヲ發育セシムルニ足ル底ノ營養分ヲ含ミ授乳中止セザル限りハ十ヶ月間持續シ其ヨリ漸次減少ス。授乳ヲ持續スルトキハ分泌ハ一二年間持續スレバ乳汁ハ稀薄ニシテ營養物ヲ含マズ而モ母體ハ授乳ノ爲メ其營養ヲ害サル、ヲ以テ九十ヶ月乃至一年ニシテ乳齒ヲ生ズルトキハ授乳ヲ中止スベシ。腎臓炎脚氣結核熱性病等アルカ或ハ身體虛弱ニシテ營養不良ナル人ニアラザル限りハ授乳ヲ勸告スベキモノニシテ産婆タルモノハ能ク乳房ヲ檢シ乳頭哺乳ニ適セザルモノニテハ之ヲ摘ミ出シ或ハ他人ニ吸出セシメ分娩直後或ハ第二日ニハ必ラズ之ヲ授クベク若シ小兒哺乳シ得ザルモノニ於テハ頤部ヲ壓下シ口ヲ開カシメ乳汁ヲ口中ニ點シ一回ノ授乳時間ハ十五分乃至二十分トシ左右ノ乳房ヲ交々與ヘ晝間ハ二時毎夜中ハ四時毎トシ成長スルニ從ヒ漸次其時間ヲ長クシ時間ヲ定メ妄リニ乳房ヲ授クルノ惡習ニ慣レザル様注意スベシ。授乳ニ注意スベキハ鼻孔ヲ閉ジ呼吸ヲ妨ゲザル様一指ヲ以テ乳房ヲ引キ揚グルニアリテ授乳中ノ睡眠ヲ戒メ又陰部ニ觸レタル手ヲ以テ乳頭ニ觸ル、コトヲ禁

ジ授乳ノ際ニハ微温湯及ビ石鹼ヲ以テ能ク乳頭ヲ洗滌セシムベシ。授乳後ニハ乳房ヲ洗フカ或ハ又能ク清拭シ柔軟ナル布片ヲ以テ被ヒ温カニ保持シ若シ剝脱裂傷等アルトキハ「ワゼリン」或ハ「グリセリン」ヲ塗布シ猶ホ治セザルトキハ醫治ヲ求メシムベク放置スルトキハ小兒ニハ口内炎等ヲ起サシメ乳房ニハ乳線炎ヲ誘起セシムルコトアリ。哺乳ヲ止ムルトキハ少量ノ消化シ易キ食物ヲ乳汁ト共ニ與ヘ漸次授乳ノ度ヲ減ジ乳房緊張スルトキハ上舉シテ輕ク繃帶ヲナシ飲料ヲ減シ便通ヲ能クスレバ分泌ハ自ラ止リ小兒ハ食物ノミニテ足ルコトトナル。

第二十七問 産褥時ニ於ケル褥婦ノ取扱法ハ如何

答 産褥時ニ於テハ妊娠中ニ肥大シタル生殖器收縮シ常態ニ復スルヲ要スルモノニテ此收縮ニハ身體及精神ノ安靜最モ肝要ナルヲ以テ分娩後ハ身體強壯ナル人ニテモ八日間ハ必ズ褥床ヲ守ラシメ第九日ニ至リ室内ノ運動ヲナシ二週間

ノ後室外逍遙ヲ許スベシ。此間特ニ注意スベキハ清潔法ニシテ初一日間ハ二時毎ニ外陰部ヲ清拭シ第二日ニナレバ三時間毎トナシ漸次其數ヲ減ズベキデア
ルガ要ハ外陰部ニ貼シタル壓抵布ノ濕潤シタルモノヲ乾燥シタルモノト交換シ
清潔ニ保持スルニアリテ此際汚物附着スルコトアレバ一%「リゾール」水又ハ二
%石炭酸水ヲ以テ洗滌シ創傷アレバ沃度「フォルム」又ハ硼酸末ヲ散布シ丁字
帶ヲ施スベシ。惡露ハ外部ニ出デ空氣ニ觸ルレバ直ニ腐敗スベキモ腔内ニテ
ハ害毒ヲ及ボサルヲ以テ腔内ハ通常洗滌スルニ及バズ只其停滯ナキニ注意ス
レバ足レリ。身軀ハ多量ノ發汗アリテ不潔トナリ易キヲ以テ温湯ニ滲シタル
手拭ヲ以テ清拭シ衣ハ屢交換スベキモ一週間ヲ經サレバ入浴セシムベカラズ。
大便ハ分娩後多ク秘結スルモノナルガ三日間ヲ經ルモ便通ナキトキハ灌腸ヲ行
ヒ便通ヲ促スベク下劑ハ醫師ノ處方アルノ外自ラ投ズベカラズ。尿ハ便器ヲ
外陰部ニ抵テ蓄積セザル様時々排尿セシムベキモ自ラ排尿ヲナシ得サルトキ
ハ「カテーテル」ヲ應用シ且ツ飲料ヲ減セシムベシ。子宮ハ漸次收縮シ多少

ノ陣痛ヲ發スベキモ若シ陣痛強劇ナルトキハ子宮ヲ摩擦シ下腹部ニ濕布繃帶ヲ
施スベク五日ヲ經レバ小骨盤内ニ入り九日ヲ經レバ全ク手ニ觸レザルニ至ルベ
キヲ以テ時々下腹部ヲ按シ收縮ノ狀況ヲ見又乳房ハ膨滿シ乳頭ハ哺乳ニ適スル
ヤ否ヤヲ檢シ分泌少ナキトキハ多量ノ飲料ヲ與ヘ乳頭凹陷スルトキハ之ヲ牽出
シ授乳ニ便ナラシムベシ。室内ノ空氣ハ終始交換シテ新鮮ナラシムベキモ直
接風ヲ通ズレバ感冒ヲ起サシムルコトアルヲ以テ成ルベクハ隣室ヨリ間接ニ外氣
ト交換セシムルノ方ヲ取ルベク衣服ハ濕潤ナキ様注意シ交換スルトキハ豫メ能
ク温メ且ツ身軀ヲ動搖セシメヌ様注意スルコトヲ要ス。訪客多キトキハ身軀
ノ安靜ヲ害セザルモ多少精神ノ疲勞ヲ來スヲ以テ少クモ初メ三日間ハ謝絶セシ
ムルヲ可トシ食物ハ初メ二日間ハ牛乳肉羹汁等液軀ノミヲ用ヒ漸次固形物ヲ與
ヘ第四日以後ハ營養ニ適シタルモノヲ用ユベク飲料ニハ麥湯砂糖湯等ヲ主トシ
琲珈茶等ノ濃厚ナルモノヲ避ケシメ交接ハ三週間ハ絶對ニ廢シ五週間以後徐々
ニ始メシムベシ。

異常妊娠異常分娩及ビ異常産褥ノ問答ハ爰ニ載セズ。
其理由ハ蓋シ此問答ハ産婆學ニ於テ最モ必要ナルモ
ノハ正規ノ妊娠分娩及ビ産褥デアルヲ以テ第一期ノ
講座ニ於テ其講義ヲ終リ第二期及ビ第三期講座ノ餘
暇ニ於テ復習セシメンガ爲メニ設ケタルモノナレバ
ナリ。

大正四年四月十七日印刷
大正四年四月廿二日發行

金澤市石浦町六十番地
著作及發行人 山田謙



印刷所 專文堂

同市同町同番地

印刷者 越川與一郎

金澤市石浦町二十三番地

發賣所 有聲館

大正十一年四月一日

山田 敬
大正十一年四月一日

211
186



終

